

1. 件名：「浜岡原子力発電所3号炉及び4号炉の地震等に係る新規規制基準適合性
審査に関する事業者ヒアリング(151)、(184)」

2. 日時：令和5年9月20日(水) 10時00分～12時20分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：テレビ会議システムによる出席）

原子力規制庁：名倉安全規制調整官※、佐口上席安全審査官、谷主任安全審査
官、鈴木安全審査専門職、井清係員、松末技術参与

中部電力株式会社：原子力本部 原子力土建部 原子力土建部長
他8名

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

・浜岡原子力発電所 基準地震動の策定について

時間	自動文字起こし結果
0:00:03	規制庁地震津波のスズキでそれでは、浜岡原子力発電所の基準津波の策定について、
0:00:12	こちらは3回目ですかね、
0:00:14	常にヒアリングになります。
0:00:17	基本的には前回のヒアリングから、中部電力の方で説明した趣旨を踏まえて、少し記載の方を見直し、
0:00:26	ことで、
0:00:27	資料、9月、本日付ですかね、1、
0:00:30	と。
0:00:30	あとは、これスケジュールは、一部、
0:00:34	ヒアリング、審査会合状況を踏まえてのアップデート情報ということで、資料があります。これは最後に、ヒアリング最後にですね簡単にご説明いただければと思います。
0:00:43	それではまず基準地震動の策定についてですね。
0:00:47	こちら少し概要の方は、少し丁寧に改めて、特に変わってない部分もあるかと思いますが、冒頭の部分は、
0:00:55	丁寧に説明をいただいて、後半はですね、特に
0:00:59	修正した部分ですかね、を中心にご説明いただければと思います。
0:01:03	それでお願いし、
0:01:05	はい。中部電力の尾川です。基準地震動の策定についてご説明をさせていただきます。
0:01:11	前回、9月11日の日にヒアリングを実施いただきまして、ヒアリングの変更点、それと概要の部分を中心にご説明をさせていただきます。
0:01:20	放送、説明時間40分ほどかと思いますが
0:01:23	それでは担当の方からご説明させていただきます。
0:01:31	中部電力の北川です基準地震動の策定について、前回のヒアリングから資料の修正追加を行いましたので変更点を中心に説明をしていきます。
0:01:44	ページ飛んでまず3ページに目次を示しておりますが構成は前回のヒアリングから変更ございません。
0:01:51	1章に概要、2章に策定方針、3章に策定4章がまとめとなっております。
0:01:58	説明資料四つつけております。
0:02:01	内容は、目次に記載の通りです

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:06	ペース飛んで5ページ6ページは前回もお示した策定方針です。
0:02:12	5ページには審査ガイド等とそれを踏まえた浜岡の基準地震動の策定方針を記載しておりますが、
0:02:19	下段箱書き二つ目の丸について、今回浜岡の方針の記載がガイドの記載に合うよう修正をしており、
0:02:32	ページは、浜岡の基準地震動の策定における特徴と、それを踏まえた基準地震動の策定方針です。
0:02:42	上段の箱書き浜岡の基準地震動の策定における特徴としましては、
0:02:48	南海トラフの最大クラスのプレート間地震が短周期、やや長周期ともに敷地の地震動への影響が大きい地震であること。
0:02:57	ナツメー05号炉周辺で地震動の顕著な増幅が見られること。
0:03:02	三つ目に、免震構造物を設置していることが挙げられます。
0:03:07	それを踏まえた基準地震動の策定方針としましては、
0:03:11	四つ目の丸、太字下線部読み上げますが、応答スペクトルに基づく手法による基準地震動、断層モデル法による基準地震動、
0:03:21	震源をさ、特定せず策定する地震動による基準地震動を策定する。
0:03:26	あと二つ目として、
0:03:28	基準地震動の策定にあたっては短周期で定周期ともに地震動評価結果が大きいなさいトラフの最大クラスのプレート間地震の断層モデル法による地震動評価結果を十分に考慮する
0:03:41	と。
0:03:42	ナツメとして地震動の顕著な増幅が見られない敷地西側で用いる基準地震動Ss1と、
0:03:49	地震動の顕著な増幅が見られる。
0:03:52	ヒガシ側で用いる基準地震動Ss2をそれぞれ策定す
0:03:56	と、
0:03:57	ナツメ免震構造物について、他の施設とは別に免震設計に用いる基準地震動を策定せず、
0:04:05	耐震設計とともに、
0:04:07	短周期、やや長周期ともに影響が大きいのかいトラフの最大クラスのプレート間地震を考慮して策定した基準地震動を、
0:04:16	免震設計で用いることとします。
0:04:21	今回、修正した点としましては、下の策定方針の方で二つ目の丸に記載の、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:28	プレート間地震の断層モデル法による評価結果を重視するとしていた箇所と、
0:04:33	四つ目の〇免震構造についての表現を修正しております。
0:04:39	また今回※の 2 を追加しておりますして断層モデル法による基準地震動は、
0:04:45	周期 0.02 秒から 5 秒の比較に基づいて策定をしますが、
0:04:51	中期 5 秒以上の成分を含んだまま用いることを記載しました。
0:04:58	7 ページは基準地震動の策定について、
0:05:01	ガイドの 5.2 節と、それを踏まえた浜岡の方針を説明するページですが、
0:05:09	ガイドは記載の通りでしたの。
0:05:12	浜岡の基準地震動の策定の黄色の箱書き
0:05:16	の記載の通り、応答スペクトル法に基づく、
0:05:20	基準地震動は、
0:05:24	今回、
0:05:26	振動の継続時間を保守的に設定することを追記しております。
0:05:31	その他断層モデル法による基準地震動
0:05:34	震源を特定せず策定する地震動については、
0:05:38	もうございません。
0:05:42	ページの策定フローはここまでの修正を反映する形で修正し
0:05:46	ます。
0:05:51	続く 9 ページの基準地震動 Ss1、10 ページの Ss2 の設定結果については変更ございません。
0:06:04	11 ページからは 8 ページに、
0:06:06	黄色の吹き出しでポイントと示し、
0:06:09	ポイントとして示している四つの項目について概要を順に示しています。
0:06:15	11 ページ 12 ページは一つ目の(1)。
0:06:19	顕著な増幅を踏まえた基準地震動の策定の概要ですが、
0:06:23	11 ページの黄色の箱書きの下に※を追加して、増幅なしの地震動評価が長周期で大きいケースがある理由を文章で記載をし、
0:06:38	12 ページ飛ばしまして、13 ページからは、二つ目の(2)、応答スペクトル法による基準地震動の策定の概要です。
0:06:47	13 ページの設計用とスペクトルの設定については、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:06:51	断層モデル法による評価結果の形状を踏まえて設定するとしている部分について記載を修正しております
0:06:59	具体的には、上段の黄色の箱書き、二つ目のマルですが、
0:07:04	1の地震動への影響が大きいプレート間地震の断層モデル法による地震動評価結果も踏まえて設定することとし、
0:07:12	断層モデル法による地震動評価結果は、応答スペクトルに基づき
0:07:17	地震動評価結果と比べて、
0:07:19	0.02秒の応答値が大きい、ごく短周期の応答スペクトル形状の、
0:07:24	町や
0:07:25	水平動は応答スペクトルの地震動レベルが大きいという特徴があることを踏まえ、
0:07:31	これらの特徴を考慮して、 S_s-D を設定する。
0:07:35	その結果、 S_s-D は断層モデル法による評価結果を概ね包絡しているとの記載に修正をしております。
0:07:43	図の吹き出しやフローの横の丸の記載も同様に修正をしております。
0:07:50	14ページは今回追加をしたページでプレート間地震の応答スペクトル法による地震動評価結果と、
0:07:58	断層モデル法による地震動評価結果のスペクトルの比較です。
0:08:03	13ページでのプレート間地震の断層モデル法による評価結果の特徴を示す。
0:08:11	応答スペクトル法はプレート間地震と内陸地殻内地震でノダの方法の鉛直水平比をも
0:08:18	行っており、
0:08:19	それにより、鉛直水平比は三分の2倍であることをせ
0:08:25	15ページは、
0:08:26	落とすペットに基づく手法による基準地震動の
0:08:30	って、
0:08:31	軽オートスペクトルと断層モデルを
0:08:34	地震動評価結果との比較を示しております。
0:08:39	16ページの模擬地震動の作成に用いる地震規模の設定については、フローの真ん中に示す東北の知見について、
0:08:47	内閣府2012において経験的手法に用いる M_w を8.3と設定し、
0:08:53	ゴトウツ
0:08:57	17ページからは三つ目の(3)、断層モデル法による基準地震動の策定の概要です。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:05	17 ページは※書きを追加しております、※1 に、いずれかの方向で、 S_s-D を一部の周期で上回るケースを、
0:09:13	3 方向セットで抽出することを記載し、
0:09:17	断層モデル S_s の選定方法として、※2 に S_s-D 。
0:09:22	及び断層モデル法による地震動評価結果の、
0:09:26	S_s-D を上回る応答スペクトルの外郭線を構成するケースを選定している。
0:09:32	という記載を追記しております。
0:09:36	図 2 の吹き出しの記載も同様の内容を追記しております。
0:09:41	またフローの横にケース数を記載しておりますが、※3 を追記し、
0:09:47	S_s2 の各検討におけるケース数の内訳を、後の参照ページ等は、
0:09:57	18 ページも、17 ページと同様に、外殻線を構成するケースを選定す
0:10:03	しております。
0:10:06	ページからは、19 ページは前回から変更ございませんが、断層モデル法による基準地震動の策定結果の概要となり、
0:10:18	20 ページから四つめの(4)免震構造の採用を踏まえた基準地震動の策定の概要です
0:10:26	ここでは検討事項を①から③の三つに再整理をしまして修正をし
0:10:32	ます。
0:10:33	具体的には、21 ページお願いします。
0:10:40	いろんな箱書き二つ目の丸に記載しておりますが、①、やや上周期に着目した。
0:10:47	地震動評価の確認を行った上で、②、必要に応じて他の施設とは別に基準地震動を策定。
0:10:54	また、③免震設計に用いる基準地震動の検討として、(エ)長周期の応答スペクトル、継続時間の検討。
0:11:05	B、
0:11:05	クドウ交通省の技術的助言の参照に係る検討を実施。
0:11:11	して再整理をしております。
0:11:14	22 ページの検討結果もこれと合わせて修正をしております。
0:11:19	浅井は後程説明します。
0:11:22	1 章の主な修正点は以上になり、
0:11:28	ページ飛んで、続いて、28 ページから、2 章の基準地震動の策定方針における変更点についてせ
0:11:36	ます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:37	まず、2.1、
0:11:39	基本方針についてですが、こちらは 29 ページの策定方針と 30 ページのフローに、
0:11:46	1 章の概要と同様に、応答スペクトル法による基準地震動は継続時間を保守的に設定することを追記しています。
0:11:55	その他は変更ありません。
0:11:58	次に 32 ページからは、2. 地震動の顕著な増幅を踏まえた基準地震動の策定方針についてで、
0:12:08	33 ページから 35 ページは変更なく、36 ページ
0:12:13	は、1 章の概要と同様に、長周期に増幅なしの評価結果のほうが大きいケースがあることの理由がわかるよう、箱書き
0:12:22	記載を
0:12:23	します。
0:12:25	37 ページからは、前回同様、基本資料を掲載し、
0:12:30	顕著な増幅の反映方法について示しておりますが、
0:12:34	新たに 40 ページを追加しております、
0:12:39	こちらに応答スペクトル法による地震動評価への顕著な増幅の反映方法野瀬
0:12:46	しております。
0:12:49	また、43 ページ、44 ページに特定して策定する地震動の増幅なしの概要
0:12:56	増幅ありの概要を掲載しておりますが、
0:13:00	こちらに地震タイプごとの家
0:13:07	店施設の修正点は、
0:13:14	次に 47 ページからは、2.3、免震構造の採用を踏まえた基準地震動の策定方針についてです。
0:13:22	2 ほど一章の概要でご説明をしました通り、検討事項を①から③の三つに再整理をして修正をしております、
0:13:32	48 ページは検討方針として、1 章の概要を再掲して示します。
0:13:39	49 ページからが検討フローで示す各項目の詳細説明になります。
0:13:45	まず 49 ページからの①、やや長周期に着目した地震動評価の確認については、
0:13:52	冒頭 49 ページに検討の概要を示す。
0:13:57	で、
0:13:58	大柿に丸を二つ記載しておりますが、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:02	①全体の構成を、既往の審査説明の確認と、新たな検討である距離が離れている規模が大きい地震の確認とに分けて整理す
0:14:20	ページからが第 1041 回会合でまとめ資料を競っ
0:14:25	説明した特定支店の評価のやや上周期に着目した地震動評価の確認ですが、
0:14:32	地震規模が大きい地震が検討用地震として選定されていること。
0:14:38	強震動生成域における地震動の指向性効果を考慮した地震動評価がされていることオカ
0:14:48	ページ飛んで 58 ページをお願いします。
0:14:56	58 ページが新たな検討である敷地からの距離を離れているが、地震規模の大きな地震の確認で、
0:15:03	日本列島周辺に最大クラスのプレート間地震が想定されていますが、
0:15:09	同じく最大クラスのプレート間地震で、かつ敷地により近い南海トラフの最大クラスのプレート間地震の方が、
0:15:17	市への影響が大きいことから、
0:15:20	力の距離は離れているが地震規模の大きな地震を選定する必要がないことを確認。
0:15:28	59 ページは追加をしたページで、①のまとめとなり、
0:15:35	11 ページからの②必要に応じ
0:15:38	他の施設とは別に基準地震動
0:15:41	については、
0:15:42	何を理由に、別に、
0:15:45	基準地震動を策定しない方針としたのかがわかるように、
0:15:49	12 ページ
0:15:50	黄色の箱書き一番下にございますが、
0:15:54	そちらの検討結果に示す通り表現をす
0:15:58	しております。
0:16:05	14 ページからの③免震設計に用いる基準地震動の検討につ
0:16:10	は、(エ)やや長周期の応答スペクトル、継続時間の比較。
0:16:16	括弧B国土交通省の技術的助言の参照の二つの検討をする形に再整理
0:16:23	しまして、
0:16:24	声、定周期の応答スペクトル、継続時間の比較については、64 ページに、
0:16:32	検討概要を示し、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:16:35	ページ飛びまして、67 ページ
0:16:37	に、検討結果のまとめページ乙
0:16:46	ペース飛びまして、69 ページからの括弧B国土交通省の技術的助言の参照については、
0:16:54	19 ページに、国土交通省の技術的助言の内容の説明と、
0:16:59	それを受けた浜岡の検討方針を記載するページ
0:17:03	しております。
0:17:05	59 ページ、黄色の箱書きに記載の通り、
0:17:08	タナオカの検討は、基本的には内閣府モデルの断層モデル法の日
0:17:14	基整促波と同等以上となっていると考えられるとした上で、
0:17:19	70 ページ移りまして、70 ページの方で基整促波SZワンとプレート間地震の断層モデル法による基準地震動と応答スペクトル法による既
0:17:30	準地震動とのスペクトルの比較により、Ss1 の
0:17:35	井清を確認しております。
0:17:38	また最大加速度、最大速度の比較からも、Ss1 の保守性を確認したことも記載し、
0:17:47	基整促波と同等以上であることの確認として、念のため、補足説明資料②にエネルギースペクトルの比較等を、
0:17:55	ありますのでって
0:17:58	します。
0:18:00	71 ページには、③、
0:18:03	海の国土交通省の技術的助言の3章の検討結果のまとめ。
0:18:13	次の72 ページは、
0:18:16	まとめとして、1章の概要ページを割いて、
0:18:20	73 ページは、免震ガイドとの対応で表現の主
0:18:24	です。
0:18:25	は以上になる。
0:18:30	続いて74 ページから、3章の基準地震動の策定における修正箇所について説明をしていきます。
0:18:39	ペース飛んで77 ページから、3.1、応答スペクトル法による、
0:18:44	4日
0:18:46	まず78 ページの、
0:18:48	ケーヨー藤スペクトルの設定の概要については、修正した一緒の概要をさ
0:18:54	います。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:18:56	これに合わせて、Ss1 について、
0:18:59	ページ、
0:19:00	ページにはプレート間地震の断層モデル法と応答スペクトル法の評価結果を、
0:19:07	町を説明する資料。
0:19:09	その中で、応答スペクトル法の評価がノダの方法に基づ
0:19:14	鉛直水平比は 3 分の 2 程度になっていることも記載し、
0:19:18	います。
0:19:24	また 81 ページでは二つ目の丸としてプレート間地震の断層モデル法による評価結果の特徴を踏まえて、
0:19:32	Ss1 の理由を設定し
0:19:35	Ss1-2 が断層モデル法による評価結果を概ね包絡していること野瀬
0:19:43	同様に、Ss1 について、
0:19:46	ペーストんで 86 ページに、
0:19:53	プレート間地震の断層モデル法と応答スペクトル法の評価結果の比較資料をおつ
0:20:00	増幅係数を乗じる前の応答スペクトル法による評価結果野瀬鉛直水平比が 3 分の 2 程度となっていることも記載をし、
0:20:09	次の 87 ページでは、SA、
0:20:12	S2-2 は、断層モデル法による、
0:20:15	顔を概ね包絡していることの説明をつい
0:20:18	ております。
0:20:19	3.1 節の説明は以上です。
0:20:23	続いて 106 ページから、
0:20:26	3. に断層モデル法による基準地震動における修正箇所についてせ
0:20:32	ねをし
0:20:38	まず 107 ページの策定方針について、フローの右端に、Ss2 のケース数の増幅あり等増幅なしの内訳をつ
0:20:47	あります。
0:20:49	ページ飛んで 111 ページ、112 ページには、
0:20:56	静水地について、Ss1-2 を上回るケースの、
0:21:00	静水地の利を上回る種
0:21:02	で最大の応答スペクトルとなる地震動
0:21:05	で、
0:21:05	方向ごとにSs1-D及び断層モデル法による評価

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:11	Ss1-2 を上回るケースの応答スペクトルの外郭線を構成す
0:21:16	その選定結果を示す。
0:21:21	同様に、Ss2 の議員についても、
0:21:25	121、122 ページを追加し、
0:21:28	示しております。
0:21:33	その他は、1 章の概要での修正を反映する形で修正しております。
0:21:42	128 ページ以降の、特定せず策定する地震動による基準地震動
0:21:48	まとめ、補足説明資料については、
0:21:50	説明資料②で基整促波の確認として先ほども申し上げましたが、エネルギースペクトルの比較を追加しておりますが、それ以外に大きな変更はございません。
0:22:02	説明は以上です。
0:22:07	規制庁鈴木です。はい。ご説明ありがとうございました。
0:22:14	これ、
0:22:15	会合だとどのぐらいの説明。
0:22:18	必要ですかね。
0:22:20	今は多分差分なんで、
0:22:23	30 分できると今、今中部電力の岩瀬です。
0:22:27	もうちょっと細かく多分説明するので、多分いつもの感じだと、50 分は、
0:22:32	かかるかなあと、50 分は超えないようにっていうのはわかりますからってイメージで、今多分紹介でフルで説明することになると、多分結構サイト特性で、
0:22:44	論点になってるところが三つかな、ぐらいあるので、
0:22:48	ちょっと長めがかかる。別に
0:22:53	いや、必要な時間を言っただければいいのはい、わかりましたその前提ではい。
0:22:57	それでですねどうしようかなちょっと改めて、
0:23:02	冒頭のところから見ていくと、
0:23:05	4、
0:23:07	すいません、5 ページか、5 ページは免震のところについて少しガイドと対応するような形で、修正されたということでこれはこれで、
0:23:16	結構かと思えますしはわかりまし
0:23:19	たと。
0:23:20	6 ページのところ
0:23:25	下から特徴を踏まえたところで、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発音者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:23:28	話になるんですけど特徴の部分は、とにかく南海トラフの最大クラスのプレート間地震が短周期、やや長周期
0:23:37	ともに敷地への影響、地震の影響が大きい地震である。これは単なるFACOM大田事実ですね地震動。
0:23:44	これは応答スペクトルの地震動評価も断層モデルの地震動評価も両方そうだとすることで、これは
0:23:52	応答スペクトルの方も断層のモデルの方も、内陸地殻内や海洋プレート内に比べて、プレート間の方は短周期長周期も全体としては影響が大きい
0:24:02	両方の一つの中部電力の岩瀬です。
0:24:06	特徴のところで書いているところについては
0:24:10	震源域に位置することからという形で書いてございます普通に考えると、これが基本的に、
0:24:17	一番影響が大きいだろうと。
0:24:19	いうことをまず書いてまして、これ結果を見てではなくて、我々の敷地の特性として基本的にはプレート間地震の影響が大きそうなサイトだよなということを記載しております。
0:24:30	その一方で下の四角の二つ目に、実際に計算をやってみると、断層モデル法の地震動評価が、やっぱり大きいねっていうところを、ちゃんと踏まえて基準地震動さらにかね、
0:24:42	実際に応答スペクトルの方につきましては、内陸地震の方の話とあと、断層モデル法と応答スペクトル法との特性の違いもあって、
0:24:52	結構プレート間地震の評価結果と内陸の評価結果が、
0:24:58	比近いものになってまして、一方で断層モデル法の方は敷地に近いところの影響がしっかり評価できるからだということだと思いますけれども、プレート間地震が長周期短周期とも影響が大きいと、そういう関係になってございます。
0:25:16	はい。
0:25:17	わかります。
0:25:19	はい。で、
0:25:20	そうするとこの点についてなので特徴のところでは当然一般的に、これはわかりきったことというような形で、ある程度で、それは明日は結果と書いてあって、
0:25:31	地震の評価結果が大きいということでこれは結果を見て、
0:25:35	こうだと。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:36	ということなんですけど、この部分の二つ目のボツですね章は、基準地震動の策定にあたっては、
0:25:45	V1、
0:25:47	D、
0:25:49	ここに対応するの基準地震動の策定にあたってはと言いつつ、これは応答スペクトルの手法、応答スペクトル主に基づく手法による基準地震動の、
0:26:00	策定にあたってはという趣旨で、使いそれとも何か気他の基準地震動も含めて何か全体的にかかっている言葉なのかっていうと、
0:26:09	ではどっちですかね。
0:26:11	中部電力の岩瀬です。こちらに関しては応答スペクトル断層モデル法云々の前に基準地震動の策定全般の中で、やっぱり
0:26:21	震源域にある断層モデル法でやったプレート間地震の評価結果は、しっかり見ないといけないだろうという考えを記載したものになります。
0:26:32	で、
0:26:36	上の特徴のところは特に断層モデルのことに断っていないんですよ。
0:26:41	下の策定方針のところはここで、
0:26:44	地震動評価結果大井ここでなぜかその断層モデルを用いた手法の地震動評価結果を十分に考慮する。
0:26:52	で、ここで断層モデルに、
0:26:55	考慮するものを断層モデルの結果に、
0:26:58	限定をされていて、
0:27:00	それわあ、なぜかという多分 1034 から見ていく、応答スペクトルと断層モデルの、この間、
0:27:07	差分というか、乖離ということの特徴ですよ。
0:27:11	それがあから、多分、応答スペクトルではなくて断層モデルを用いた、プレート間地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果を十分に考慮するっていう、
0:27:21	ところに対応するんだとすると、
0:27:24	いや基準事象の策定にあたってはっていうと、多分後ろに行くと、何か断層モデルの地震動の基準地震動の策定とか、ましてや特定せずの基準地震動の策定のところに、
0:27:36	何かこのプレート間地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果を十分に考慮するって、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:42	繋がっていくのかというと、そこがあんまりよくわからなかったんで、後ろのページに飛んでいくと、何か結局ここって、応答スペクトルに基づく手法による基準地震動の、
0:27:53	策定にあたっては、
0:27:54	ノダ損テールを用いた手法による地震動評価結果十分に考慮する。それはなぜですか。
0:28:00	131415にあるような、こういう少し違いがあるんですけど。
0:28:04	そういうなんか話で、
0:28:07	読みとって言ったんですけど、
0:28:09	それともう1回繰り返しですけど、ここは何かこう基準地震の全般にわたってっていうと、応答スペクトル S_s1 、一位 DS_s-D 外に
0:28:20	何に対して受働十分考慮したことになってるのが、
0:28:23	広めていくとよくわからないんですけど、
0:28:28	中部電力の岩瀬です。そんなに
0:28:32	難しいことは考えてないといいますか、この段階では地震動評価の応答スペクトル法と断層モデル法とかを見ても一番大きいのはやっぱり断層モデル法のプレート間の評価だよな。
0:28:43	これはちゃんとしっかり見ないといけないよねというぐらいを言ってるつもりで、実際に基準地震動の策定の具体の反映としては、今鈴木さんがご指摘いただいたように、応答スペクトル法のほうを設定する際にも、
0:28:56	応答スペクトル法と断層モデル法の評価結果の違いの傾向も踏まえて、
0:29:02	ちゃんと横目で見て応答スペクトルの範囲の設定に反映しているし、
0:29:07	断層モデル法の選定においても、プレート間地震の、
0:29:13	ここ、断層モデルはというものが、数多く、
0:29:17	を数多く S_s として選定して、結果として大きいので当然制定されるんですけど、そういうところで具体にはこの結果を十分に考慮するという結果が、基準地震動の策定に反映されていると、そういうふうに我々としては考えて
0:29:36	ちょっと基準地震動に当たってという表現が、
0:29:41	宇都全体の方針を述べているかのように、ちょっと強すぎるなんていうのは今ちょっとご指摘を受けて感じてたところでは、
0:29:55	ちなみに、この
0:29:58	右側の図ですけど、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:30:01	上の図は、これは震源域に位置することかプレート間の地震の震源域に位置することから、
0:30:09	というのを多分、視覚的に表したものですかね。
0:30:14	下の図はこれ多分もうSsの基準地震動を策定した後の多分結果です。結果じゃないかこれ。
0:30:22	黒線は、
0:30:24	Ss-DTVで、
0:30:26	この線は、
0:30:28	下は、これだから地震動評価結果ですよ。
0:30:34	もし
0:30:36	左側の二つ目のポツでこの短周期が長周期ともに地震動評価結果が大きい。
0:30:42	南海トラフの最大クラスのプレート間の断層モデルを用いた手法による地震動結果を十分に考慮するっていう中に、
0:30:49	地震動評価結果が大きいっていうのが、
0:30:52	これは応答スペクトルも断層モデルの方が大きいんですということも含めて、
0:30:57	何か
0:30:58	これ説明したい図なのである。そうすると、
0:31:01	何かSs-Dと比較しちゃうとあんまり、
0:31:06	断層モデルを用いた手法の方を、特に
0:31:09	十分考慮しなきゃいけないんです、ですっていう、
0:31:12	これ繋がらないような、
0:31:14	説明に見えるんですけど、14 ページとかねこの辺、ちょっとこれは、
0:31:19	プレート間だけじゃないものもまざって赤と青だけでしかももちろん示していない図なんですけど、
0:31:26	何か急にここで断層モデルの方だけをこう、十分に考慮するっていうのがこの 6 ページの右側の図を見ても、
0:31:35	あまりピンとこない。
0:31:37	なんですけど、これは右側これ左側のどこを説明しようとしてる図なんでしたっけ。中部電力の岩瀬です。今具体的にどこの反映がというところまで、
0:31:48	ご説明しましたけれども、この段階では、プレート間地震の断層モデルの地震動評価結果が大きそうだねというところぐらいを先出しで少しこう、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:58	大きいねっていうのを一応言ってる、何らかの図をつけようという形で、Ss-Dも付けといた方が、大きさの感覚がわかるだろうということで参考に図をつけているもので、
0:32:11	この図を使って、さっき言っていたどちらにしるこの具体的話は後にならないとわからないもんですから、具体的話を後ろの図で説明するにしる、
0:32:21	こことしては一応、断層モデル法の結果が大きいプレート間の断層モデル法が、
0:32:26	の結果が大きそうだというものの
0:32:30	参考になる図をちょっと例として入れただけで、これで何か左の方針をこの図だけで説明しようという意図でつけたものではありません。
0:32:40	はい。あんまりこの黒線のSs-Dといえばこの
0:32:44	紫とこれは、
0:32:47	緑と青、
0:32:49	この紫が大きいんですということだけを見ればですね、あんまりこのSs 1Dは、
0:32:55	あまり
0:32:55	この説明上は、はい。使ってない。
0:32:58	はい。二つ目顕著な増幅のやつこれはね個別の地震動評価のところでもある程度聞いてるんで、あとは免震のところは、特に太字下線引いてないですけど、最終的にはこの
0:33:11	こういうSIMMERもともとね、やや長周期に着目した地震動評価そもそもやってつつ、ただ最終的に他の施設別に作らない理由っていうのは、この固有周期が比較的短いと。
0:33:23	いうところが一番端的に理由を述べようと言われると、
0:33:27	これは固有周期が短いからですという、
0:33:31	そこに尽きるんですかね。場所が
0:33:34	SSHのエリアにしかないっていう話は多分それは場所の話なんで、こ別に作る必要があるかどうかというよりは、はい。
0:33:42	はい。中部電力の岩瀬です。はい。前回のヒアリング、
0:33:47	での議論を踏まえまして議論というか確認を踏まえまして、ここは明確にした方がいいという考えのもと検討しまして、やっぱり、
0:33:57	ここの免震の基準地震動を別に作らないという考え方を端的にこの固有周期の問題がメインだと思っておりますので、これで基本的に考えてその他の検討は、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:34:09	もちろんやるんですけども基本的に確認検討に近いものというふうな形に整理できるのではないかとということで今回資料を再構成して、
0:34:21	説明資料の流れも含めて見直してますけれども、そういう形で明確にしたというものです。
0:34:31	はい、わかりました。なので、どの断面で、別途作の必要がないかを判定した上で残りの部分は、こういう配慮もできていると、震動評価の中で、こういう点もカバーできているというのを補足的に説明。
0:34:43	はい。
0:34:45	てわかりましたじゃあんまりこの6ページの段階で具体的な地震動評価結果の分析みたいなどころではなくてここはざっくりとして、
0:34:55	細かい分析ではなくてざっくりと、こういう点には注意しながら、
0:35:00	いわゆる、この、
0:35:02	そのあとでね応答スペクトルの基準地震動の策定の方針だとか、断層モデルの方針だとかっていうの後出てきますんで、
0:35:11	それは個別のところでもうちょっと細かく分析をして
0:35:16	配慮事項を決めていくと。はい。
0:35:19	7ページは、ここあんまり変えてないかな。なんで大戸スペクトルの方は、一般的な
0:35:29	この応答スペクトルの地震動評価結果の包絡に加えて、
0:35:34	さっきあったような断層モデルの評価結果も踏まえて設定する。
0:35:38	どう踏まえるかはこの後で後のページで分析結果があるので、
0:35:43	そこを見ればいいと。はい。
0:35:46	断層モデルの方はこれはあんまり特異なやり方ということでもないの で、 S_s-D を上回るケースのうちから
0:35:58	周期で最大となる。
0:35:59	最大の応答スペクトルなる地震動設定。
0:36:02	特定せずともあんまり個別の選び方はない。
0:36:07	はい。今回、
0:36:11	こういったと。
0:36:14	と言いつつ先にあれなんだよね増幅の説明があつて11ページですかね。
0:36:20	一応ここどこダどこ行った
0:36:24	米印。
0:36:28	短所
0:36:29	周期若井

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:30	これか。
0:36:32	米印の中に埋もれてしまっはいるものの短周期の特定周期、フーリエスペクトルだと 0.2 から 0.5 秒ということで、
0:36:43	これ単なる見栄えの問題ですけど右の図これ応答スペクトルですけどね。
0:36:50	なんかこう薄い網掛けとかで、そのフーリエスペクトルの
0:36:54	周期で特定の周期って言われてるのが、この範囲内で、
0:36:58	これ短周期側は、結局その影響を受けてるんですかねこれ。
0:37:03	短周期側は、あまりこのフーリエスペクトルの 0.2 から 0.5 秒よりももっと短周期側の方も、
0:37:11	増幅ありなし、増幅。
0:37:15	ありの方が、結構短周期が軒並みなんか引き上がってますけど、一方で長周期は多分このフーリエスペクトルの増幅へのあんまり長周期側には効いてきてなくて、
0:37:25	長周期の方はもうどっこいどっこいでどっち、どっちとも言えません。
0:37:29	かなと思うんですけど。
0:37:31	これ一応短周期側確かちょっと古いは、前に、何か言うのご説明いただいてるんだと思うんですけど短周期側はこれ、増幅ありの影響。
0:37:40	受けてるんですよこれ。
0:37:42	中部電力の岩瀬です。応答スペクトルになりますと最大絶対加速度の応答スペクトルになる関係もあって、
0:37:52	短周期の 0.2 から 0.5 秒辺りが大きくなってパルスが大きくなると、それによって最大加速度が大きくなるのが、そのままより短い 0.03 秒とか 0.02 秒の方にも当然最大加速度大きくなるという意味では、
0:38:07	影響してきますので、これ駿河湾地震の応答スペクトル比と、あとフーリエスペクトルの比の分析のときも、まさにそうだったんですけども応答スペクトルは、
0:38:17	0.0、要は 3Hz のあたりを中心に、短周期高周波の方まで全部影響するんだけどもフーリエスペクトル比で見ると、0.02 秒から 0.05 分結構狭い範囲に、
0:38:31	増幅が限定してると、そういう特徴っていうのが、分析してるのがこの応答スペクトルにも素直に反映されていると、そういうものだと思う。
0:38:44	わかりました。はい。
0:38:46	なんで、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:49	ワダから特定の周期に全部評価を行っている。なんで、あまりその影響が出てこない。長志賀の方は、これはどちらも、
0:38:57	差がないというかこれは多分それぞれの小断層モデルは何で、多分それぞれの1個1個の少し特徴で、両者で出っ込み引っ込みがあるので、
0:39:06	はい、わかりましたので両方、ここは両方、5号炉周辺はこれ両方を考慮する必要があると、長周期側についてある。
0:39:14	はい。これもある程度、地震動評価のところで説明してるところの、
0:39:20	延長線ですね。はい。
0:39:23	今回、もう少しわかりやすくしてもらったのが13ページからですかね。
0:39:35	これて先だから14ページを見た方がいいのかな、まず、
0:39:43	だから、方針としてはもともと前のページにもあるようにまずは基本的にはまずこの応答スペクトルの評価結果を包絡するかガイドで言われている話ですよ。
0:39:53	次が、その断層、冒頭で、断層モデルのプレート間断層モデルの地震動評価、これが短周期をするのかなり、
0:40:02	支配的とか地震動評価結果としては
0:40:04	大きいってのも、これは結果として自明なんで出てるので、
0:40:09	それをどう踏まえるかと。
0:40:11	ということで、
0:40:14	ここでだから考慮しなきゃいけないのはこの下線が引いてある2.0.02秒の応答値が大きいこのごく短周期のところはかなり断層モデルの結果が、
0:40:24	上がっているという特徴と、
0:40:28	あとは水平動かなり
0:40:30	応答スペクトルの地震動レベルが大きいと
0:40:33	断層モデルと比べると断層モデルの方がですね、
0:40:36	ということでこの2点をカバーしますと、はい。
0:40:41	その特徴のが、14ページでこれは後ろに行くにあれですね多分。
0:40:49	顕著な増幅を考慮した方の応答スペクトルと断層モデルの結果も、多分後ろの方には86ページはかな思っていて、これはだから、増幅ありなし、共通の特徴として、
0:41:02	このごく短周期の話と、特に水平側、かなり余裕を見た方がいいという、
0:41:09	この2点、この特徴だから、増幅ありなし両方共通ということでもいいですよこれ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:41:15	中部電力の岩瀬でその通りです共通に見られる特徴と分析しています。はい。起こりました。
0:41:22	なので、13 ページのフローでいくと、一般的にこの応答スペクトルの結果を包絡するという、普通のやり方に加えて、
0:41:32	その 0.02 秒の話と、あとは特に、特にですけどね、鉛直も多少の余裕見た方がいいって話かもしれないけど、特に水平側で、地震動レベルを
0:41:43	というところの特徴を反映して、 S_s1DS_s-D をですね設定する必要があると。
0:41:51	で作った後に水辺貯金のところは、より詳細にというか正確に比率の分析をして、
0:42:01	きちんともとの断層モデル法の水平鉛直比率っていうのがきちんと反映されてるかっての最後チェックをするという趣旨でこの括弧書きがあると、確かそんな説明して
0:42:19	データ、はい。あと
0:42:22	水平鉛直比 14 ページの応答スペクトルの地震動評価結果としての、水平鉛直比ですねこれ三分の 2 というのは、これもあれですね、増幅ありなし。
0:42:33	共通で、基本 3 分の 2、
0:42:37	これは合ってるのかな。
0:42:38	中部電力の要請です増幅ありのところが難しい、ちょっとわかりにくいところあるんですけども、基本的に耐専スペクトルで素直に、
0:42:48	直度を評価していますので、これ他社さんと一緒ですけども、敷地の補正係数を使ってない評価である限りにおいては、基本的に解放基盤のところ、
0:42:59	3 分の 2 程度の関係の補正係数を使う関係で、3 分の 1 程度になって
0:43:04	増幅、或いはそれにそれぞれ増幅ありをオンするので、増幅ありの増幅係数をかける前のところは三分の 2 ですよというところを書くという形で、説明をするようにしております。
0:43:17	はい。
0:43:18	そうですね、増幅係数掛けちゃうとその時点で、水平の増幅係数と鉛直の増幅係数の分だけ、一旦差分が出ちゃうので。はい。別にそこを踏まえて、そこを含めて、
0:43:28	三分の 2 だということではないはずなんではい。
0:43:32	ここはね基本体制でやってる以上は 3 分の 2 ですと。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:43:36	なんだけどそれでいくと、特に水平はねこういう差があるってそれは増幅ありなし、共通の課題です。
0:43:43	ここは一応、この辺は使って向島
0:43:46	はい。
0:43:48	それで次は具合を、これ結果の方ですねという、
0:43:54	こうやってきちんとを作ると。
0:43:57	概ね包絡しています。
0:44:00	で、
0:44:01	概要のところは水平鉛直話し出すとトゥーマッチなんでこれは後で説明するということですね。あとチェックになるので、はい。
0:44:09	模擬地震はのところは、何か変えたのかな。
0:44:17	中部電力のイワサ若干わかりにくくて申しわけないんですけども、箱の
0:44:24	四角のところの、東北地震の観測記録に基づく地形の検討のところ、
0:44:31	太線で書いてあるMW8.2 から 8.3 程度という内閣府
0:44:36	の分析結果、これ内閣府の分析結果だということがちょっとまだ書いてなかったので内閣の分析結果を参照しているということを表すとともに、
0:44:45	これはその分析だけではなくて、経験的手法、その次のですね、課長による 8.3 を実際に設定して計算しておりますので、そのことを追記させていただいたと。
0:44:57	いうところがわかりました。フローの違い、はい。
0:45:00	内閣府 2012 ではまず
0:45:04	東北地方排風機地震の分析ではこう言われて、内閣府 2011 も実際にこうやってMw8.3 と設定して使われていると。
0:45:14	その 2 点と、あとはノダの方、
0:45:17	でも炙るAMGはM8 程度で飽和す。
0:45:21	するという。
0:45:22	ふうに言われているという、はい。
0:45:25	わかりました。ここ、この間ですね。はい。経験的賞に用いるMw厚さを設定して、実際使ってますという話を出したと。
0:45:34	はい。
0:45:36	で、
0:45:37	うん。
0:45:40	なるほど。
0:45:42	終わりました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:45:50	はい。
0:45:58	はい。で、次があれかな断層モデルですと。はい。
0:46:04	このページ自体はそんなには変えていないんだけど、18 ページかな。ここで、
0:46:16	今日、外殻先期を太線あそこ
0:46:19	いい側に結構細かく吹き出しを書いていたのを、
0:46:23	シンプルにして、
0:46:25	このぎ黄色い学生を引いてこれに、
0:46:28	黄色い線、野瀬広夢、色が塗られるやつを選びますという学生に該当するものを選ぶと。
0:46:34	いうことでこれはわかりやすくなったんじゃないかなと思います。その上で、
0:46:39	基本はこうやって外郭性になるようなものをピックアップして拾っていきます。
0:46:45	で抜けがないかは最後比率。
0:46:49	で見ますということですね。はい。
0:46:52	ちょっとその結果が 114、124 を参照するんですねちょっと。
0:46:58	それを、すいませんパッと見ます。
0:47:01	14、
0:47:07	断層モデルを欠く結果、
0:47:16	そういうことか。
0:47:19	これー。
0:47:21	いや 18 ページのこの外殻線のイメージをこう頭の中に暗記して、すぐ 114 ページとか見ると、
0:47:28	この辺が黄色くなるんだらうなっていうのわかるんですけど。
0:47:33	日パーン
0:47:34	いやこのナカ比率っていうと外郭性に対する比率っていうと、
0:47:38	このページだけ見るとあんまり外郭性がどこか。
0:47:41	わからないんで、
0:47:43	これは何だろうな。
0:47:47	この黄色くマーカー塗ってもこの黒線とか赤線は機器消え見えなくはならないですよ。
0:47:54	いや、せっかく 18 ページとかでなんか大学生、もともとの黒線とか、
0:47:59	緑とか赤とか、こういうところに何か、黄色いマーカーうんってわかりやすくしたんなら、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:48:04	これ外殻線っていうのもこの 114 ページとか 124 ページ。
0:48:08	大学生でこれですって何かわかるようには、
0:48:11	すいません。
0:48:13	テクニク的に難しい。
0:48:15	中部電力の岩瀬です 114 ページの線に、
0:48:22	外殻線の、
0:48:24	線を
0:48:25	ちょっと黄色で見えるかどうかは自信がありませんが、何か書くことは、当然、
0:48:32	日をとってますのでできるんですけども、あまりそういう表示の仕方を、
0:48:38	したものを、
0:48:39	先行サイトでも見たことがなかったので、
0:48:42	考え方としては当然、わかりやすさの観点で説明したものの、
0:48:48	そこまで図示することが誤解を与えないかがちょっと、
0:48:54	迷いがありまして、
0:48:56	あんまりここに外郭線を、これ、ずっとしてもそんなに根を傷じゃないんで、学生に行くと見づらくなるなら無理には、
0:49:04	はい。
0:49:05	和気。はい。
0:49:07	ないかな。はい。一応この外殻線を引いてその比率を出してるってことで 18 ページで、その手順というか、大分型っていうのは大分わかりやすくなったとは思いますが。
0:49:19	最後、選ばれたものが、これで
0:49:24	19 はあまり書いてないのかな。はい。
0:49:29	それで、次が免震ですね。
0:49:33	免震は、
0:49:36	どうしたかという、まず地震動評価として長周期に着目した地震動評価というものをやってますかって言いません心やっています。
0:49:47	21 ページ見ながらですけどね。
0:49:49	必要に応じてとなった時にここは実際の免震構造物のこういう周期 2 倍程度に着目すると。
0:49:58	これはだから必要がないんです。
0:50:03	で、ベッドの作成は必要ないんです。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:50:11	着目する周期に違いがない場合は、耐震設計と免震設計で共通の基準地震動を用いると言ってるのは括弧書きがありますけどね。
0:50:21	これは
0:50:24	次の 22 ページで言うと、耐震設計ともに山周期という制限がない。
0:50:30	でした。
0:50:34	これ何か次の 22 ページにいくと、ベッドの大田の別に、免震設計に用いる基準地震動を策定せず、この真ん中の箱の 2 番目のポツですね。
0:50:45	耐震設計とともに、
0:50:49	南海トラフの最大クラスのプレート間地震を考慮し策定した基準地震動
0:50:54	を免震設計で用いる方針とすると。
0:50:59	でますけどこれなんか特に、
0:51:01	縛りをかけてというか限定をかけて、
0:51:05	Ss-N1D、Ss1-1 から 1-幾つだ 20 幾つまでありますよね。あの中で、何かこれだけは、
0:51:15	これは使うけどこれは使わないとかそんな取捨選択あるわけではないですよ。
0:51:20	これはもう何か基準地震動Ss1 すべて使いますっていう意味でよろしいですか。
0:51:25	中部電力の岩瀬です。
0:51:28	Ss1 の中で何かを選定するというわけではなくて全部を使うという、鈴木さんの言われた通りで、
0:51:36	ああいう考えでいます。結構人に言ったら、多分、使われないものももちろん出てくるんでしょうけど、3 成分合成してこれは入りませんかかってあるかもしれない。わかりました。
0:51:47	はい、どうぞ。
0:51:49	方針結果とも③の方ですねこれが何で、別途、
0:51:56	の基準地震動を作る必要があるかどうかを判定した上で、あとはいらな
0:52:04	いとなった場合、
0:52:04	ですかね。
0:52:05	それはどちらにせよこの
0:52:08	頻度評価結果及び系高等スペクトル。
0:52:14	継続時間との比較、あとは、国交省、技術的上限とはい。
0:52:22	うん。
0:52:24	これじゃ線引きはそうしましたと。
0:52:28	今よりその何だろうな、ベッドのを。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:52:33	もともとの地震動評価はどうやってた、ベッドのをご自身と基準地震動作る必要のありなしはこれで判断しました。
0:52:40	プラスアルファでこういう確認もしましたと。
0:52:42	いう3点セットがわかりやすく、
0:52:45	お考えはわかりやすくなりました。はい。
0:52:48	ということでとりあえずこの結果とかですかねあるとあとは基整促波の話とか後で、
0:52:56	ちょっと確認をしますけどまずこの音の基本、
0:53:00	基本方針概要ですかね、概要でも結構、30ページぐらいありましたけど、概要部分で何か、
0:53:08	確認とかありますか。なければここに一緒に行きますけど。はい。じゃないです。
0:53:16	谷ですすみません
0:53:18	なんか最初の方に戻ってしまうんですが、5ページで、
0:53:24	なんか一番最後の浜岡の基準地震動の策定の免震構造を設置していることからやや長周期に着目して地震動評価を実施してなってるんですけど、
0:53:36	これなんかね21ページとか見てたら、
0:53:39	やや長周期に着目した地震動評価を確認してる。
0:53:45	この、
0:53:46	やや長周期に着目して地震動評価を実施っていう言葉でも何かな、ないんですけども、この使い分けってコード、どういうふうになってるんです。
0:53:58	何か長周期に着目した確認を何か実施しているのかなっていうふうな感じなんですよねこの21ページ以降、
0:54:10	中部電力の岩瀬ですガイドの言葉がこの5ページのところではガイドのところが着目してなので、素直に着目してと書いてるのが1点。
0:54:21	我々が実際やってることからすると、もともと免震ガイドとかそっちの方の記載は、多分短周期主体だと長周期はやってないかもしれないので、
0:54:35	やってねという思いもありながら表現が、選ばれてると思うんですけど我々短周期をやる時に、ただ単にやや長周期も含めたでっかい
0:54:46	地震を考慮するたまたまそういう特性のあるサイトだったので、
0:54:50	やや長周期っていうのは我々は免震を意識しなくても、
0:54:55	他やってあったということで、我々の検討としては、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:55:00	ガイドが上がるとか基準規則とかで行っている、着目して地震動評価をし、と言ってるのが、免震のところに検討するに行った段階でもうやってあったと。
0:55:11	いう事実があるので確認となっているだけで、
0:55:15	ちょっと誤解を与えかねない心配があるのは、理解してるんですけどもそういう関係になってると。
0:55:24	やってみましたよっていうのは例えば 21 ページでは、
0:55:28	下、
0:55:29	どっかで読めるんだったら私は全然いいかなと思いますし、これは言葉じりであんまりこだわることもないのかもしれないので、事実関係は起こりました。
0:55:39	でね、免震構造物を設置していることからっていうので始まってんですけど、
0:55:45	この免震構造物間、今あるものだけを見ればいいんですっていうような、
0:55:52	ことを、今もう作ってるものだけを対象にすればいいんですっていうその対象の話って、何かここにこうないじゃないですか。いやそれ以外はないんですよ。
0:56:02	計画もないんですよ。
0:56:03	今あるものがこれなんですよっていう話になってんですけど。
0:56:07	何かその他のもう、
0:56:09	ほかにももう、
0:56:11	そんなものを作る予定ないんですよとかそういうものはもう書かなくてもいいんですかねっていう。
0:56:18	ひょっとしたら耐震設計方針とかに何か書くのかもしれないですけど、今これだけを見とけばいいんですっていうような、
0:56:26	ものっていうのは、
0:56:28	何かこう、何かでこう読めるように、
0:56:32	なってたらしいのになと思ったんですけど、中部電力の岩瀬です
0:56:38	まず 5 ページの段階では、基本的に、
0:56:43	この基準地震動の策定にあたって検討が必要か否かということだけを言っているんで、
0:56:49	ある意味ちょっとしているという表現とすると書くかは、若干迷ったところあるんですけどもある意味宣言で足りてるとは思ってるんですけど

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	も、一方で今谷先生、阿多 2003 が指摘していただいたところについては、
0:57:03	何ページだったかな。
0:57:05	免震の結論を言うところの 22 ページ。
0:57:09	などで、
0:57:11	ここで言ってる免震構造物の固有周期がと言っているのが、今、少なくとも今設置許可で我々が考えている安全対策の範囲内においては、
0:57:22	この元今考えてるこの緊急時ガスタービン発電機建屋以外にはないこと、これが唯一の免震構造であることは、確かに、
0:57:32	認識できないと。
0:57:34	はい。
0:57:36	ちょっと表現については考えてみますけど、書くとしたらここ、
0:57:41	だというふうに認識して、
0:57:44	はい。つまりねそうですね申請の中に免震構造として考慮する必要があるのはこれだけなんだと。
0:57:52	いうのがね、何かこう出だしであればね。
0:57:55	何かすっきり読めるのかもしれないですね。
0:58:00	あとは、
0:58:07	あとねこれ、これ、私の意見というわけでも、8 ページで、
0:58:11	8 ページの一番下に書いてることが、何か前は、
0:58:17	これ
0:58:19	前はね他の施設とは別に、免震設計に用いる基準地震動を策定せず、耐震設計と免震設計で共通の基準地震動を用いるっていう書き方をして、それだったら、
0:58:32	耐震設計で用いる基準地震動は全部使う。
0:58:36	という意味で書かれていたのが、
0:58:40	でしたよね。
0:58:41	例えば S_s
0:58:43	70%あるのは全部、
0:58:45	免震構造でも使うっていうことでいいんですよね。
0:58:49	で、それがね今のね募集分が、
0:58:53	何か根井小例だけを読むと 8 ページの一番下だけを見ると、他の施設とは別に設定せず、耐震設計と短周期でね。
0:59:03	ここに影響が大きい南海トラフの最大クラスのプレート間地震を考慮して策定した。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:59:09	これがあるがために、
0:59:13	何かねえ。
0:59:14	ひょっとして南海トラフの最大クラスのプレート間地震を考慮して策定した基準地震動
0:59:20	だけを使うっていうふうに読めてしまって、その事実確認今のは、
0:59:27	確認としては、耐震構造全部使うっていうのは確認できたんだけど、文章として、ちょっとその辺が誤解を招かないような記載っていう方が、
0:59:37	いいんじゃないのかなというふうに思いました。
0:59:39	今の文章はね、ちょっとこれは伝わらないと思いますね。
0:59:44	中部電力の岩瀬ですご指摘ありがとうございますエミは
0:59:49	共通のというのを意図して外したわけではなくて、南海トラフのことも説明しといた方がいいんじゃないかという思いで、日本語をいじってる間に、大事な、
0:59:59	共通に使うという話が落ちてしまったということだと思いますので、優先順位としてはやっぱり共通で用いるということが一番説明しなきゃいけないことだと思いますので、ちょっとこの辺は修文させていただきます。
1:00:15	はい。
1:00:16	刀禰後はねえ。これ私がこう理解できなかったのかもしれないです。11ページで、
1:00:22	さっき鈴木さんも確認して、
1:00:25	くれたんですけども、
1:00:29	米がキーで書いてることっていうのが、
1:00:33	何かいまいちわからなくて、
1:00:36	これって僕、僕の勘違いかもしれないですけど、プレート間地震の、
1:00:43	これあれですよねSs2 シリーズでは、
1:00:50	特定して特定せずっていうのをSS1 シリーズで使ったものもそのまま持つ
1:00:55	それも見ますよっていうことを説明してるんですけどこれって、
1:00:59	何か、
1:01:01	増幅を考慮したものが、
1:01:03	全部の地震を増幅を考慮していないからだから、Ss1 で使ってるものがSs2 でもチャンピオンになるっていう、そういう話だったのかなっていうふうに思ってたんですけども。
1:01:16	何か今の文章は、
1:01:18	もし、むしろ何か

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:01:21	一部の周期しか、
1:01:24	増幅させていないからみたいな形になってて、
1:01:30	どこが主に、
1:01:33	なって、Ssに増幅しない場合がチャンピオンなるケースがあるんだよつていう、そのどこのどこが主になって、
1:01:43	そういうことが起きるのかっていう、何か説明としてね、何か私はあんまりこう、
1:01:48	理解できなかったんだけどもう1回ちょっとこれをこう、
1:01:52	かみ砕いて教えてもらっていいです。
1:02:01	中部電力の岩瀬です。36 ページをお願いします。
1:02:08	もともと増幅なしの評価の時には、この36 ページの青い
1:02:14	色で背景が塗ってある左側の、
1:02:21	物モデルを使っています、直下にある意味ディレクティビティがきくような形で、
1:02:27	それぞれ二つの直下モデルを作っていて、
1:02:32	それに対して、これに増幅を一部だけかけるっていうと、もっと増幅2、SMGAが寄ったモデルの方が厳しいんじゃないかというのがあるので、
1:02:43	それを比較した上で、短周期の増幅に特化した
1:02:48	評価という意味で、
1:02:50	この赤を赤色で背景が塗ってある、SMGAを全部寄せてみた。
1:02:56	ケースを評価すると、そういう形になるので、短周期に特化した関係で、もう長周期の評価は、これはSsIIを作るときに、
1:03:07	面倒見る、面倒見るとか一緒に入れて、Ssを選定するという前提で短周期、
1:03:12	2 特化した赤い評価をしているので、これはちょっと卵が先か鶏が先かのところあるんですけども、
1:03:21	長周期が逆転する可能性があることは0に織り込み済みでこのモデルの違いと、短周期だけを増幅させるっていう、そういう検討の違いが、この長周期の逆転現象に出ると。
1:03:35	いうふうな形です。
1:03:41	それ、その説明でいうと、
1:03:44	藤。
1:03:47	増幅させないで、もともとの小断層モデル法データ、検討対象地震が増幅させるような、
1:03:56	モデル

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:03:58	1 じゃないものが、
1:04:00	Ss-Dのな中で、チャンピオンになってることはなかったんです。
1:04:09	全部が全部増幅させてないですよ。
1:04:13	検討対象地震を、
1:04:17	中部電力の岩瀬です。
1:04:19	家増幅のこのエリアに入っている検討対象地震だけを、
1:04:23	選んで増幅させていますので、
1:04:27	増幅させてないものはあります。
1:04:31	それがチャンピオンになってることはないですかSsにし、
1:04:35	中部電力の岩瀬ですアノSSは、例えば、御前崎海脚西部の断層単位 なんかは、
1:04:43	次、ごめんなさい、17断層による地震については、このエリアに入りま せんので、増幅ありの評価の対象とはしていないんですけれども、増幅 なしの17については、
1:04:54	当然このSSを通を作る時にはちゃんとその
1:04:58	アノ選ぶ対象には全部入れて、議論がすげえ議論がかみ合っていない。
1:05:03	うん。で、今ようやくカミヤオオオカと思ってて、谷さんが言ってることに 対してはイマイSより落としてるんだけど、うにやうにやうにや言ってる内 容はイエスなんですよ。
1:05:14	結局、増幅を考慮しない地震動がチャンピオンになることがあるからこ の注意書きが入ってるってことなんだって。何でイエスなんですよ答 えが、だからちょっとかみ合っていない、やりとり。
1:05:27	んでね。
1:05:28	でね、s17もうこの、最初のフローの中にはい。はい。入ってくる。
1:05:34	きてる、この270ケースですかね。
1:05:36	ていう部分を、225ケースの中に、A-17ですかね、これも入ってるわ けですよ。
1:05:43	そその説明。
1:05:45	が、ここの11ページのこのアスタリスクでは、
1:05:49	何かこう、
1:05:53	拾えてないんじゃないのかなっていうのが僕の、
1:05:56	確認したかったことなんです。
1:06:01	ごめんなさい僕はひょっとしたら勘違いしてるかもしれないんで、勘違い してたら言ってください。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:06:22	なんで、ちょっと言い方をすいません変えると誇張周期で大きいケースがある。
1:06:26	ありというふうに矢印で理由書いてるじゃないですか。この言葉だけで、さっき言った 17、あれは増幅コールをそもそもやってないですよ。
1:06:35	と言うと 1011 ページでいうと左側の青い地震動評価結果の中にしか存在しないもの。
1:06:42	ですよ。
1:06:44	それを今のこの長周期で大きいケースがあるっていう言葉だけで 17 みたいなものが
1:06:50	この矢印の中に、
1:06:52	読めるか。
1:06:54	中部電力の岩瀬です。増幅なしの中では、長周期が大きい。
1:07:01	こういう、ああいったケースもあるので、
1:07:03	全部を入れますというつもりで書いたつもりだったんですけども、
1:07:07	はい、すいませんちょっとその辺の表現が足りないことは理解できました。ありがとうございます。
1:07:16	はい。
1:07:19	多分一番多分注意したいところが多分そこで、
1:07:22	そもそも増幅を考慮している、地震の評価やってるケースってのは、極意国じゃないんだけど、一部でやってないものもあるんで、当然それは含まれますよってということで、
1:07:35	趣旨としてはね理解してはいるんですけどはい。
1:07:40	中部電力天野でございます。
1:07:42	11 ページの右の絵で先ほど鈴木さんがおっしゃられた通り、短周期のところ赤い線が
1:07:49	上がっては 0.5 秒以下ぐらいのところ影響して、
1:07:52	ここでも、長周期はそうでもないっていう。
1:07:56	こんなのもあるから、湾のやつを全部見ますっていう意味なんですけども谷さんおっしゃられる通りちょっと、それでオールではないんで、その辺りちゃんとわかるように記載を改めます。
1:08:09	すいません。あとはね、ちょっとね、
1:08:12	16 ページでね前も誰か確認したのかもしれない。ちゃんと教えて欲しかったのがこれなんで、
1:08:20	最終 8.5 で検討しますっていう話なんですけど、その背景っていうのが書かれているんですけど、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:08:28	これもう平たく言うと、
1:08:31	これは何かあと、
1:08:32	新生児から何か新しいことがわかったから変更しているかという、
1:08:38	そういうわけではない。
1:08:48	中部電力の岩瀬です。
1:08:49	新しい
1:08:52	要は我々が申請した時に、なかった知見が出てきたというよりは、
1:08:59	ことではないのは谷先生が今谷さんが言われた通りで、単純にこの内閣 2012 の経験的手法の最大規模のこういった知見を我々が参照するというのを、
1:09:10	ところが、やってなかった。それをやるようにしたというところが違いになります。
1:09:15	うん。
1:09:16	別に今まで別に適切じゃなかったわけではないんだけど、より適切にしたみたいな感じなんですか。申請時は 9 っていうのは、
1:09:27	やっぱり適切じゃなかったっていう話なのか。
1:09:29	それはそれでよかったんだけど、今回、より
1:09:35	いろんな知見を採用して、適切にしたっていう話なのか、ちょっと
1:09:42	ぜ。
1:09:43	過去との整合関係っていうんですかね、その辺はどう考えてるのかちょっと確認させてください。中部電力の岩瀬です。
1:09:55	アノし、
1:09:57	新生児の段階ではこの知見を
1:10:01	ちゃんと取り入れてなかったという点については、ちょっと検討が足りないという点はあると思いますが、
1:10:09	ある意味安全側であればいいという発想であれば、
1:10:14	不適切とまでは言えないかと思えますけれども、基準地震動として、こういった知見にも従って適切なものを
1:10:22	を策定するという意味ではこの 8.5 で作ったものが妥当であろうというふうに我々としては考えてます。
1:10:34	はい。考え方が、前もだから、
1:10:37	ゆ、保守的に見ているっていう点では、おかしなものではなかったんだけど、より知見を反映して、適切なものとして設定。
1:10:48	来たんですよ、それは。
1:10:51	うん。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:11:06	ものでございます 16 ページの箱書きの下に※で、
1:11:11	書かせていただいている通りで今岩瀬が申し上げましたけど、
1:11:15	やっぱり、
1:11:17	東北技能観測局の知見の検討をすることなくという部分においては足りてないという意味では足りてなかった。
1:11:26	谷テラサワ当然、
1:11:29	ここに記載している通りで、
1:11:32	ただ、それは
1:11:33	ご説明してる中でしっかりと
1:11:36	反映してきたというのが事実でございますのでそこをおしかりを受けるとい意味では仕方ないかと思うんですけど。
1:11:44	はい。
1:11:46	ちゅ中部電力のやつあと 1 点補足しますと、
1:11:50	保守性、こういった知見を見ながら、我々保守性は一定程度見なきゃいけないことは認識してますので地震動評価をする際もこの模擬地震動する際も、体制の最大である 8.5 までは使いましょうと。
1:12:05	いうところでは見てますので、9.0 を止めたからといって保守性を
1:12:12	見なくていいという考え方で書いたものではない。
1:12:20	谷です事実関係確認できましたお考えもよくわかり、
1:12:24	ありがとうございます。
1:12:40	はい。他、冒頭の部分では、
1:12:43	よろしいですか。
1:12:46	よろしいですか。どうぞ調整官どうぞ。
1:12:50	私最初の方の冒頭的那須概要のところを読んで、
1:12:55	所管は他の人と一緒に、ほぼ一緒に、
1:13:01	プレート間地震を考慮して策定した地震動だけ落ちるように読めるところがあるので、ここはちゃんと直した方が適正化した方がいいということとあと、
1:13:12	11 ページのところの注記のところろうも、これちょっとわかりにくいので、少し修正した方がいいということそれからあともう 1 点、これは他Cのところからだけかもしれないけど、
1:13:27	6 ページの注記 2 番。
1:13:31	これ、書き方をちょっと注意した方がよくて、
1:13:36	基準地震動を策定する時は、周期 0.02 秒から 5 秒における施設への影響を考慮して、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:13:45	基準地震動を策定するんだけど、
1:13:48	断層モデル版については、5分以上の成分を含んだものを用いるって何かすごく中途半端な言い方をしてるんだけど、
1:13:56	これって一アノラーソンモデルのによる死亡ハイブリッドで長周期の方は、周期 10 秒とか、そっちの方ぐらいまで、
1:14:06	要は信頼性がある評価を、要はさアノす、要はできるモデルになってると思うんで、
1:14:14	そこは断層モデルはわあ、
1:14:17	要は加工するとおかしくなっちゃうので、
1:14:20	加工しないで、
1:14:23	用いるってことなんだけどそれを、
1:14:25	そう含んだものを用いて何か少しちょっと言い方が乱暴なのでちょっと言い方を工夫した方がいいんじゃないかなという気がしました。
1:14:37	中部電力の岩瀬です。ご指摘の通りだと思いますので含んだままといったところについては少し適正化を図りたいと思います。ありがとうございました。
1:14:47	うん。趣旨としては、加工しちゃうと、別物になっちゃうから断層モデルは、その手法ナビの地震動をちゃんと信頼性が高いものを求めているのでそれはちゃんと使えますよ。
1:15:00	いうことだけだと思います。ちょっとお聞きしたかったのは、
1:15:04	設計を通してスペクトルを設定している S_s-D は、
1:15:11	どうですかね、 S_s-DH かな。
1:15:14	DVか S_s-D の方なんですけど、
1:15:16	これはどういうふうにしてるんですか。秒より長周期側のところは、
1:15:22	中部電力の岩瀬です。これちょっと見える形にはしていませんが、
1:15:28	通常のDの設定の仕方にだと、この 5 秒のところから、
1:15:34	辺一定で落とすことはあるんですけども、ちょっと我々 10 秒までは、基本的にほぼフラットオノ 300 回のまま、
1:15:45	伸びる形のレベルにして、10 秒ぐらいのところから変位でそっから先は、ある意味、数そんなに考えていないってことですけど 10 秒までは 300 回のまままっすぐ行くレベルのものは、
1:15:58	一応、保守的な考慮として我々としては数、模擬地震動を作成してございます。
1:16:04	うん。
1:16:06	わかりました。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:16:08	ということはあくまでも周期 0.02 秒から 5 秒っていうときの言い方を、ちょっと気をつけた方がいいのは、黄色い四角書きのところの基準地震の括弧周期 0.022 から 5 秒って書くと、
1:16:23	そうするとその基準地震動はその範囲でしか信頼性を確保してませんよ。
1:16:29	ということだけしか読めないような感じになるので、
1:16:32	じゃなくて、基準地震動を策定する時の施設への影響については、0.02 秒から 5 病院着目して、基準地震動を策定するんだけど、
1:16:43	浜浜岡については、
1:16:47	断層モデルそれからもう議事範囲について、
1:16:51	一応 10 秒までは成分としてはちゃんと、
1:16:55	考慮した形で策定は一応してるっていうことなのかもしれないけど、ちょっとそれを書くとじゃあなんでこの 0.02 秒から 5 秒に策定こだわるんだって、
1:17:06	という話になっちゃうんでちょっとあれですけど。
1:17:11	うん。
1:17:11	断層モデルの説明はちゃんと書くとして、もう自身説明のところについてはそれは、取りまとめ資料とかでちょっと、今後書くようにしてもらい、
1:17:22	ないなと思いました。以上です。
1:17:26	中部電力の岩瀬ですご指摘ありがとうございます表現の適正化を図りたいと思います。
1:18:01	もう少し後の 30 ページ以降ですかね。
1:18:04	進めていきます。はい。蔵狩野。
1:18:09	33、34 はもうこれは
1:18:14	ていることの繰り返し 35 もそうですね。
1:18:21	36 がさっきの説明だと
1:18:25	フーリエスペクトルの周期で 0.2 から 0.5。
1:18:30	この増幅を考慮してかつ特定の到来方向なんで、かなり増幅。
1:18:39	特定の到来方向に入るようなものについては、この SMGA の配置とかこういうところもかなり、
1:18:44	その増幅ありの方に寄せて評価をしてましたという話でこれは過去のね、
1:18:49	36 からは一応過去の話なんで、
1:18:53	三十七、八で噴いスペクトル。
1:18:57	39 も、これは S 増幅係数で加速度フーリエスペクトル比

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:19:07	これも、
1:19:09	これ応答スペクトルの方でどう配慮したか 40、
1:19:14	これは、
1:19:16	応答スペクトル比は自体はここには載ってないのかな、これだけ載せるとそっかきりがいいのか。
1:19:25	一つそれぞれ検討地震とかそれぞれごとの応答スペクトル比があるから、全部は野瀬れないのでってことですね。
1:19:34	わかりました。
1:19:36	ただ、あれ、地震動、特定しての時のまとめじゃないですけども、WACそこには多分全部載ってますかね多分ね。はい。
1:19:45	ここは応答スペクトル表配布しますと。
1:19:47	データも応答スペクトル比になるのもう少し短周期だとか、
1:19:51	含めて比率で反映されましたとはい。
1:19:55	特定せずはこれはもうどこにあるかわからんのですべてかけましたというこれも過去の話ですね。
1:20:06	で、
1:20:08	基準。
1:20:10	これで 4、11 ページまでは相当、はい。
1:20:15	42 ページからはやや
1:20:20	細かくはあるがもともと、
1:20:23	特定
1:20:24	増幅なしのこういったケースを増幅ありでもやりましたって話なんで、
1:20:29	ここもあるかな。
1:20:31	内訳が書いてあるのか。
1:20:37	はい。43 ページで 41 ケース内陸地殻内 63 ケースプレート間、海洋紅の 58 ケースで、
1:20:45	そのうち増幅ありが、
1:20:47	内陸地殻内はまず御前崎だけ、17 が落ちるのでこれで 20 ケース。
1:20:54	プレート間も、
1:20:56	これも幾つかのケースありました 24 ケースで海洋プレート内も
1:21:01	これはどっちだ。
1:21:05	スラブ内は、
1:21:06	対象になるけど、
1:21:11	沈み込む海洋プレート内地震は対象外になるんでこれは、がざっと減って 19 ケースかな。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:21:18	ちょっと過去の、
1:21:19	すいません思い出になります。
1:21:22	これもこれまでの説明だと、
1:21:27	あと免震の方は、途中でさっき飛んで確認しましたけど 48 とか、ここは何で今回さっきの方針で聞いたような、
1:21:36	話の流れとしては一緒に、
1:21:40	特にだから金丸さん、48 ページの③に該当する、もう少し、
1:21:48	加筆しましたということで、
1:21:53	これ基整促波の話とかは、
1:21:56	あれ何か補足のどこにあるって言いましたっけ。
1:22:05	専用の補足じゃなくて、補足の①は多分、免震構造物なんか建屋の説明ですよ。
1:22:11	補足②のどこかに埋め込まれているとあってそんな話でしたっけ。
1:22:15	中部電力の要請で 179 ページと 180 ページに入れていまして、
1:22:26	179 ページ 2、これ
1:22:30	本編に入れてるものと同じですけども、議事。
1:22:34	速度応答スペクトルの比較。
1:22:36	これにエネルギースペクトルの比較っていうものがありますので 10 秒までのエネルギースペクトルの比較を載せているのと、
1:22:44	あと継続時間の観点で 180 ページに、
1:22:49	650 秒過ぎぐらいまで、
1:22:52	これ単純にの会場の数字ですけども、ところまでちゃんとエリアを考えると、評価しなきゃいけないと考えてもとに、その計算時間を設定して評価をしていますよって、ちゃんと 600 秒上考えてますよっていうことをわかるように、180 ページに、
1:23:07	を追加してございま
1:23:09	を。
1:23:12	補足②の中の最後に入れてるのか。
1:23:16	うん。
1:23:18	応答スペクトルに基づく手法による基準時、
1:23:23	補足 02 というのは、
1:23:26	これは何 48 ページで言うところの③のAとB。
1:23:32	関する補足をしている。
1:23:35	資料でしたっけ。
1:23:42	中部電力の米津ですけども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:23:47	も、基準地震動の、断層モデルは、の方と比較していってるところの話がずっとここには入って入って、その前の 170。
1:24:00	7 ページとか 8 ページが、免震の関係で速度、
1:24:04	アノは形の比較をしたものが入ってますので免震関係のは形の比較ということでそのままこの中に入れたということの整理に今はしています。
1:24:19	す、何かそうですねSs-DとSs-Dのことまで、多分補足の説明の②はもともと説明を、
1:24:27	していて、
1:24:32	その中に入れるというのは、何かきちんと何か免震のところに関する補足っちゃうことなら、多分補足。
1:24:41	丸さんにして、後繰り下げるか何かした方がいいと思いますけどねこれ。
1:24:45	中部電力の岩瀬です。少しちょっと補足が確かにわかりにくくなってる場所ありますのでこの辺構成も含めて、わかるように整理いたします。
1:24:55	これ、補足の②は一般的な、時刻歴や形とあとはその加速度の時刻歴は形での強震分の継続時間を、これ断層モデル、Ss1DSs2Dと、
1:25:07	断層モデルのSs
1:25:09	等比較。
1:25:12	するっていうのはこれがもともとの多分使ってた目的ですよ。
1:25:17	そこから、この免震の大丸さん、48 ページの③だと。
1:25:23	スペクトルのレベルとかあとはその継続時間が少し速度、
1:25:28	速度は形での継続時間の比較っていうのが、もともと通常やるものに加えて、必要というか別途、加えて、その比較を見せる必要があってあとは国交省上下の参照の話。
1:25:41	これは速度の方は、
1:25:44	結局どこに入ったんでしたっけ速度は。
1:25:49	中部電力の岩瀬です速度の比較は、本編の 66 ページ。
1:25:55	2、代表例を入れてその他を、先ほどの補足のところに入れてます。
1:26:02	あれ、補足妥当、どこに行くかという、
1:26:06	だから 107、
1:26:08	10、
1:26:10	7 ページか。はい。だからこれ 170。
1:26:14	7 ページからがこの免震のために、特別に、
1:26:19	イセ、補足で説明しますページぐらいですけどね。
1:26:23	ここを切り離すってことですね。はい。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:26:32	ちょっと補足があるので適宜と言っていた部分なんですけど。
1:26:38	速度は系の方はこれは前回もこんな話は、
1:26:42	きたんで、
1:26:44	179 ページからって
1:26:50	疑似速度応答スペクトルの比較、これは前回もありましたと、右側があれですねエネルギースペクトルで、
1:27:02	これが技術的上限では、
1:27:06	高校とって疑似速度応答スペクトルの、これ前回もヒアリングでもありました。今回エネルギースペクトルが、
1:27:15	基整促波と同等以上。
1:27:18	基整促波のエネルギースペクトルが青線で、
1:27:23	これに対して、断層モデルははね、かなり
1:27:28	周期体で出っこみ引込みありますけど、基本的には全体の傾向土砂を上回ってるし、特に
1:27:34	SEDはもう全体として上回ってるということで、これは火を見るより明らかですと、いうのを示した上で、
1:27:41	この 0.1 から 10 秒の注記成分を含みと言ってるのは、
1:27:47	これはだから、断層モデルの地震動評価で、当然そこを含んだ評価をやっている、それも踏まえて一応SsDGのさっきありましたね。
1:27:58	一応、周期 1 秒から 10 秒ぐらいまでは、多分ここら辺フラットになるような前提で、
1:28:04	模擬地震が作ってますという話なんで、入っていると。
1:28:09	継続時間 500 秒以上のところは、
1:28:13	これは最終的に、
1:28:16	どう説明されているかというのを多分、ここ説明端折ったので、ちょっとここだけ、この 500 秒以上のところについてどういうふうに、
1:28:25	これは何ですかね。
1:28:27	微弱なやつも含めて 180 ページでいくと、一応評価上 600 秒ぐらいまで、655 秒まで断層モデルの評価のときに、
1:28:36	ここの 655 分とこの 500 秒以上って言ってるのは、一応 10 日値なんでしたっけ
1:28:43	中部電力の岩瀬です。
1:28:45	500 秒以上と言ってる時に、基整促波っていうのが若干、若干とか模擬地震はに近いものなので、
1:28:55	結局

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:28:57	すごくて振幅のちょっとホワイトノイズ的な波がずーっとSz湾とか、
1:29:03	見ていただくとわかるんですけれども、基本的に地震動として意味がありそうなところは 100 秒ちょっとぐらいしかないんですけれども、500 秒以上を作るという関係で、すごい小振幅のものがだらだらとずっと続くという
1:29:18	それを、それを断層モデルで表現するっていうのは当然違う話になりますので、断層モデルの方では、ここの 180 ページ目の二つ目の丸に書いてますけれども、
1:29:29	大事なのは一番遠いところの日向灘から来る波まで、
1:29:33	がちゃんと敷地で評価できるようにしっかりと計算時間をとって、その中で、
1:29:42	きちっとその敷地に到達する波を、
1:29:45	評価をすると、そういった観点では 655.36 秒っていうところまでちゃんと計算時間をとって、
1:29:53	波を評価しているところで実際やっているのが、例として見ているのがこのSs1-4 から 650 で、示しておりますが、これ破壊開始点が違ってくる。
1:30:05	同じモデルのケースでして、破壊開始点によってこの主要動が来たりするところが違うんですけれども、ひゅ、
1:30:14	日向灘から来るような波もちゃんとこの中にちゃんと収まる形で評価をされていて、ただ少し補足で書いてありますけれども、計算上のちょっとノイズみたいな
1:30:25	アノな地震動とは思えないような波が出るそうで、その部分は、処理をするという形をせざるをえないので、その辺の形で、最後の行 600 秒ぐらいのところになると、
1:30:37	振幅がないように見えるとは思うんですけれども、それはもう、計算上意味もないやつが出てきちゃうようなところはこれ処理せざるをえないということで、処理をしてる関係で、その辺がなくなっていますけども、
1:30:50	ちょっと表現がなかなかわかりにくくてこの 500 秒以上の適切な地震動を断層モデル法でどう表現するかと。
1:30:57	いうところの確認っていうのが、若干困難ではあったんですけれども、そこはやっぱり、何、一番遠い日向灘まで含めて、しっかり 500 秒以上の計算時間を、
1:31:09	とって、敷地の地震動を評価するというふうに我々としては解釈をして分析してきたという

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:31:16	です。
1:31:22	そうすると、このこの継続時間 500 秒以上っていうところはこれが断層モデルの方は、
1:31:29	こういう説明の仕方ができますというところで、
1:31:33	一方でこれ、す別にSSGだの、共振の継続時間を 500 秒まで延ばせるわけではないので、
1:31:41	どうでどうやっても破綻するんで、
1:31:44	あっちはどういう説明になるんですかね。
1:31:47	いや、もう何かこう 100 秒。
1:31:50	中 10 燃料なんか前の、すいませんエネルギースペクトルまでのところは、多分一応断層モデルの結果、地震、基準地震動、あと応答スペクトルのSs1D、
1:32:02	なんか一応基整促波のエネルギースペクトル比較して、こうですって言っていて、何か継続時間 500 秒のときになると急に何かここ多分断層モデルの
1:32:12	地震動、
1:32:13	評価の話が急に出てこなくなるので、
1:32:17	その関係がちょっと全然よくわからなかった。
1:32:20	中部電力の岩瀬です。基本的に基整促波の話は、模擬地震はというよりは断層モデル法の方のな、要は南海トラフのターゲットしてる地震がきちっと評価できてるかっていう面で、
1:32:33	本編の方に書きました基本的に南海トラフのモデルを使って、しっかり断層モデル法で評価してあるってことが、基本的にはそちらが基整促波の対応となって、
1:32:43	なのでそちらがちゃんと評価をしていることが大事という考えのもとにこの 170180 ページは分析、確認をしていると。
1:32:52	500 秒以上のところについてはちょっと、
1:32:55	なぜ無理やりにでも 100 秒以上してるかっていうところも考えたんですけども、基本的に耐震設計が免震の設計の音解析をするときに、
1:33:05	普通の家の場合、減衰が大きいのですぐ止まってしまうんですけども、結構長く揺れることがあるとすると応答解析時間をそれなりに長くとる。
1:33:17	必要があって、そういうところも踏まえたときに、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:33:21	主要動がないようなところの時間があっても、最初に入力の設計地震動を長くしておけばおのずと地震応答解析時間が長くなりますのでそういう効果も、
1:33:32	あって、こうなってるのかなというふうに、
1:33:37	うーん。
1:33:38	わかりましたちょっと、調整官をお願いしますどうぞ。
1:33:45	名倉です。
1:33:48	この 880 ページって説明がちょっと中途半端だなって。
1:33:52	思うんですが、
1:33:54	計算対象とする地震動の継続率っていうか、655.36 秒とするって話と、
1:34:03	継続時間を 500 秒以上とするという。
1:34:09	国交省の助言の話とはちょっとか影やなくて、中電力は計算上は考慮してるんだけど、
1:34:19	総合ではの基準地震動としてはカットしてるわけですよ。
1:34:23	154 名 200 なり、
1:34:27	そこんところが何も説明がなくて、
1:34:30	カットしても全然施設施設影響がないという、
1:34:37	どこで説明してるんでしょうかねという、そのときにちょっと気になったのが 179 ページのエネルギースペクトルの比較っていうのは、
1:34:44	督促案については 500 秒の継続時間、エネルギースペクトルを出して、
1:34:51	いると思うんですけど、断層モデルはは 655 秒までのものを使ってるのかそれとも実際定義している、150 秒なり 200 秒ぐらいのところ長見てるもんでやってるのか。
1:35:06	ちょっと
1:35:07	これ、ちゃんと説明しないと。
1:35:11	コメント回答がつきますよ。
1:35:12	コメントが出ますよっていうだけで、
1:35:16	エネルギースペクトルを 655.36 であった場合と庁議ってやつで、ほとんど差がないのか。
1:35:25	そういうことを示せばそれでいいのかもしれないし、何か決め手がないと、断層モデルは、じゃあアノ 655.36 秒まで、
1:35:37	定義した $S_s - F$ を設定しなさいってなっちゃうかもしれないよ。
1:35:44	これどうどうしたいんですか。
1:35:46	中部電力の岩瀬です。180 ページのところで、今、要は南西諸島の方から、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:35:56	なんせ精舎日向灘の方とか何か良いから来ているものは、小振幅であるという辺りで、影響が小さいことを
1:36:04	書いたつもりだったんですけども、施設の評価の観点で、この辺が大きな影響がないことを、
1:36:12	ちゃんと書くとともに、その 179 ページの、こういったエネルギースペクトル、これ継続時間を考慮してある。
1:36:20	スペクトルになりますので、これが本当にその小振幅の後の後続版のところの関係がないかっていうのをきちんとお示しするように、資料を修正したいと思います。
1:36:33	ありがとうございました。
1:36:37	わかりました。
1:36:40	ちょっとこら辺は中部電力として私がちょっと少しアイデアを言った形になってるんだけど、中電力として、継続時間はまだちゃんと。
1:36:51	アノラ層モデルについては切ってますと。
1:36:53	切ってるんだけど、これでいいんです。
1:36:56	計算は 600 何秒まで考慮していて、
1:37:01	継続時間 500 秒以上となってるんだけれども、施設影響の観点から、これ取っても全然影響ないんですっていうことであれば、そこら辺の論理がちゃんとわかるような、
1:37:11	これでいいんだっていうことを説明し切っていただきたいということをお願いいたします。これ、やはりコメント回答にするのかそれとも、
1:37:21	当日までに示すのかということでは当日までに新ベースという理解でよろしいですか。
1:37:27	中部電力の岩瀬です急いで修正して、審査会合資料に間に合うように、修正をすることを考えています。
1:37:38	はい。わかりました。私は以上です。
1:37:45	はいちょっと待ってくださいね。基準実施。
1:37:52	何これ。
1:38:01	ずっとちょっとさっき説明の途中だったのは何でこれ国交省の技術的助言を、
1:38:06	参照して、
1:38:07	等々、ガイドでいうと国交省の技術的助言で南海トラフの巨大地震による長周期地震動対策の対象区域にある原子力発電所において、
1:38:18	免震構造を採用する場合というのが一応、
1:38:22	免震構造でも判明したい免震ですけど、御社ここに当てはめると、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:38:27	国交省の技術宣言を参照の上イシイ設計に用いる基準値の策定を検討していること。
1:38:33	ここ、この部分を参考で確認しますと、そのときには、
1:38:38	それがそのSs1Dに対してというよりも、Ss1 シリーズの小断層モデル、
1:38:46	ニツタイシイて、いわゆるその継続時間の間、速度の継続時間の観点と、さっき言ったスペクトルのレベル、エネルギースペクトルのレベル、あとはどこまで継続時間をカバーした評価をしているかを、
1:38:59	しますと、一応そういう流れでになってるんですかね。なんか、あれ、前回だとSs1Dの速度、
1:39:07	8 速度の継続時間との、
1:39:10	比較をして、うろ覚えなんですけどしてたような気もしたんですけど。
1:39:15	今回でも、70 ページとかを見ると、
1:39:18	基整促波
1:39:20	の最大加速度最大速度に対してとあって、断層モデルの基準で指導Sa ず、
1:39:26	市野さん、このプレート間に限りますよね。多分 17 とか関係ないのでって いうことで、プレート間の中の
1:39:33	Ssですね、断層モデルのSsでこれの最大加速度最大速度の話と、
1:39:40	あとは、
1:39:43	周り、
1:39:46	あと一応そのあとで一応Ss1Dも、
1:39:49	普通コウノSs-Dとか押す多分先に書くんだけど、あえてそこを逆転さ せて、まず断層モデルと基整促波との比較をして、ちなみにSs-Dとの 関係もこうですって、
1:40:00	何となくそういう構成に、
1:40:03	見たんですけど、これ速度の比較はこれがまたあれか不詳の補足に 行くと、補足で基整促波との、
1:40:10	何だ継続時間の比較っていうんですかねこされてるんですか、だっけこ れ。
1:40:23	中部電力の岩瀬です
1:40:25	基整促波の方はSsの比較をした時に 50 館以上に、
1:40:31	の時間とか比較してたんですけど、そういった観点との比較だと 50 回 より小さいので、
1:40:37	基本的には振幅の差で、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:40:42	全然レベルが違うものという意味で 70 ページは説明をしていますが、
1:40:46	それ以外の基整促波の
1:40:49	へのエネルギースペクトルとかそういったものは、一応確認しましょうということで補足の方に入れたという形にしています。
1:40:57	なるほど、なんか多分、麻生家だから応答スペクトルエネルギースペクトルレベル感が違いすぎるので、そこで継続。
1:41:05	時間って言った時に、さて、そこを戦わせて、
1:41:10	もうなんかレベルが段違いなものについて、どこで継続時間とって比較するのかっていうところで、あんまりそこはだから見てないわけですね。
1:41:19	椎野、伊井と若井、わかりました。
1:41:23	あ、すみません。どうぞ。
1:41:27	私はちょっと今さっき、
1:41:30	少し調子に乗っておりすぎちゃったんだけど、継続時間 500 秒以上ってというのは、さっき岩瀬さんが説明した通り、
1:41:38	模擬地震はを作成するときの継続時間のことを念頭に言ってるんだけどそこって、国交省の助言では明確に言ってましたけどもECはを作成するとき継続時間 500 秒以上って、
1:41:54	中部電力の岩瀬です。模擬地震とは書いてはないですね基整促波の方法を念頭にしゃべってるんだとは思いますがけれども、その辺は、
1:42:04	なかなかその資料から読み取ることは難しいです。
1:42:09	わかりました。
1:42:11	そこんところがそう読めればですねもっと説明の仕方は何て言うのかな合理的に説明すればいいんだけど、
1:42:20	ちょっとこら辺、断層モデルとの比較で継続時間 500 秒っていう話を、どうしてもこれ言ってしまうと、まだそう思ってるで、200 秒に切っても全然、
1:42:32	影響ないよって言った上で断層モデルはをベースにした継続時間がどれぐらいかということ进行分析して、それを模擬地震はどこにフィードバックするっていう、多分そういう考え方になるのかなと。
1:42:46	ですけど、ちょっとそこら辺の論理の階層構造があると思うので、ちょっとその中でちゃんと 500 秒に対してどういうふうな説明をするのかということでは、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:42:56	少し断層モデルの観点からも詰めをちゃんとした方がいいでしょうし、模擬地震はっていう観点でじゃどうかっていうことのガチンコ勝負もちゃんとした方が、
1:43:07	いいのかなというふうにちょっと思いました。以上です。中部電力の岩瀬です。
1:43:13	ご指摘ありがとうございます。
1:43:16	この辺急ぎ、その論理構成も含めて再度検討して、審査会合の資料提出までに直したいと思います。
1:43:29	はい。
1:43:30	そうですね。木曾。ここその技術的助言を見て、
1:43:35	でもそうです。ここで、
1:43:37	対象地震によって建設で発生されると想定される長周期地震動が基整促波または基整促波の策定手法と、
1:43:46	同等以上に適切でとって、
1:43:49	あんまりまだダイレクトにねもういい人なの、断層モデルなの。そんなところまでは書いてくれば、
1:43:56	いないわけですけど。はい。
1:43:59	はい。ちょっとこんな前ここはもうちょっと最後ですね。
1:44:03	多分、継続。うん。時間の話のところだけもう少し系伝わるようにしていただける。
1:44:10	はい。
1:44:11	それ以外は、
1:44:13	国、あんまり変えてはないので、
1:44:17	72 ページの検討結果もはい。
1:44:20	はい。
1:44:22	ここで最後結論ですかね。
1:44:26	こういう周期が比較的短いということなんで結論としては、別途のものは作らずに、
1:44:33	で、この後耐震設計とともにところが多分何回かでこの辺、いろんなところ出てくるんですけど、
1:44:38	これは何人かからもありましたけど、
1:44:41	何か南海トラフの大体クラスのプレート間っていうと何か限定がかかるように見えるので、ここは別にもう中で、
1:44:48	基準値耐震設計で用いるも基準値をそのまま使えますと。
1:44:52	いう趣旨で端的に書いてしまえばよくて、また書きが、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:44:56	このほか、設置場所の話ですね、何でSs1 シリーズのほうを用いますと、
1:45:03	ということで、この 2 点でこういう周期の話と、
1:45:07	あとは設置場所の話で、Ss1 ベッドのものは作らなくてSs1 と 2 じゃなくて誠実だけを使うという縛りがかかるということで、
1:45:18	はい。これはね実態の実物が現状そうなっているということなんで、ある程度何とか見通しというかはあった上で、ちょっとあと設計のところはどう今後説明していくかっていうのは、
1:45:31	我々の中からは外れる話なんで、
1:45:33	この 2 点の条件が、
1:45:35	をもってSs1 にしますということは入れなかったと。
1:45:41	あとは、
1:45:44	70、74 ページ以降は基本方針は、
1:45:49	あまり変わってなくて 78 ページのところからも、
1:45:53	Ss2Dの方が先ほど 80 の、
1:45:59	6 ページといったところだった
1:46:01	ん違うか。
1:46:02	Ss-A1 シリーズが、
1:46:06	これ概要版で聞いたのと一緒で、
1:46:10	80 ページのようなこういうに二つのポイントを配慮しますと、はい。
1:46:17	比率なあ。三分の 2 に対して、
1:46:23	これが大体 2 倍程度。
1:46:32	これは断層
1:46:34	ん。
1:46:36	法による地震動評価結果。
1:46:41	これは、
1:46:45	これは、
1:46:48	これ 83 ページの
1:46:52	すいませんこの比率と言ってるのはこれあれですよね基準地震動に選ばれる、選ばれない関係なくって、もう断層モデルの実施、プレート間の断層モデルの地震動評価結果の、
1:47:05	いつもドンと出しているんですよ。はい。
1:47:08	それを踏まえてコントロールポイントを設定してレベル感調整しましたと。
1:47:14	で、Ss2 シリーズが 86 ページにこれも同じく、こういう傾向があるので、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:47:21	同じような配慮をしました。ちょっと細かいね
1:47:24	モテギハマダありませんけど、
1:47:27	課としては、はい。
1:47:31	概ね包絡するようにレベル間調整して比率の確認をしましたと。
1:47:42	これが増幅係数も、
1:47:46	と。
1:47:48	二倍掛かっていうか増幅係数の方も考えなきゃいけないので、2.9 倍。
1:47:55	と、
1:47:56	とと。
1:48:02	と同等と。
1:48:05	この何か基本震源モデルのただし書きも一応聞いたのかな。
1:48:16	一応これは基本震源モデルだけはあんまり基本モデルなんで、あまり増幅。
1:48:22	何か増幅のさせ方というか、
1:48:24	これ。
1:48:25	ほとんど多分増幅エリアが入らない。
1:48:29	これは、
1:48:31	もうね、これは、
1:48:33	特定しての多分資料の方を見ていくと、
1:48:36	確かに基本し、基本モデルは、
1:48:39	こういう形で、いわゆる強震動の生成域の範囲が、基本モデルなんで何もいじらないので、さっきみたいに、増幅ありの評価なんで、生命需要、極力その増幅ありの方に寄せてみたいな。
1:48:51	配慮してないから、あんまりここは基本モデルが、少し、戸部別口でしようという趣旨ですね。はい。
1:49:00	これを確認した後でコントロールポイント調整します。ここまでは
1:49:06	特に前回からもあんまり変えてないですね。
1:49:09	もう、土岐茂木進藤の設定でこれも
1:49:14	は、93 ページのところに同じように
1:49:18	経験的賞を用いるMw8.3 として、内閣 2012 年生、設定されてますと。
1:49:24	いう趣旨を追記しましたと。
1:49:28	いうことでここも大きくは変えてない。
1:49:35	はい。
1:49:37	もうそんなに書いてない。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:49:40	あとは断層モデルですかね。あと、応答スペクトルのところで改めて何か、
1:49:46	Ss1DSs2Dのところ、
1:49:49	何か聞いておきたいことある方いますか。
1:49:51	なければちょっと断層モデルの方
1:50:00	はい規制庁佐口ですけど、ちょっともう1回確認させていただきたいんですけど。
1:50:06	これ92ページとか93ページであり、
1:50:09	92ページで、
1:50:13	はい。
1:50:15	東北、
1:50:17	沖を踏まえると、
1:50:20	MMw9.0。
1:50:22	言っていましたけど、例えば内閣
1:50:26	でこれは、
1:50:27	Mw8.2から8.3程度
1:50:31	いうところ、ノダの手法を用いるという、
1:50:35	条件下においては最大が8.5ぐらいでしょうということでもJですね。
1:50:40	ということ8.5。
1:50:43	いうことで、
1:50:44	Xeqは
1:50:46	今のところもっと長くなるように設定を
1:50:51	ですお聞きしたいのは、
1:50:53	じゃあですね、Mj8.5。
1:50:56	Xeq136.2で、
1:51:00	都丸です。
1:51:02	ポートスペクトルって、
1:51:04	どの程度のレベル感なのかなと思って。
1:51:10	ちょっとその前、ごめんなさいね、戻りますけど、
1:51:13	もう最初の方で見てみた方がいいのかな。
1:51:16	例えば、
1:51:17	どこどこでもいいですけどね。
1:51:21	その応答スペクトルっていうのを、
1:51:24	設定したものと、
1:51:26	その関係ってどうなってるか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:51:29	教えてもらって
1:51:36	中部電力の岩瀬です。例えば 13 ページ。
1:51:40	これSs1Dの、
1:51:43	応答スペクトルですが、
1:51:46	これに、
1:51:48	フィッティングするように、
1:51:52	継続時間の揭示特性を決めて、
1:51:56	オートスペクトルのレベル自体は 13 ページのもので、固定ですね。
1:52:03	あと継続時間が変われば当然茂木派の形が変わってきますけれども、 応答スペクトルとしては 13 ページのこのDの形状で、
1:52:11	基本的に固定です。
1:52:14	はい。キチョウ作成ちょっと私の言い方が、
1:52:17	あまりよくない。
1:52:19	ないので、もう 1 回ちょっと端的に言うと、
1:52:22	13 ページで、
1:52:24	書かれている、例えば水平ですね。
1:52:26	水平のクロフト線というのが今当然制定をされている応答スペクトル。
1:52:31	ね。
1:52:32	一方で、ちょっとグレーで破線で書かれてますけどこれはあくまでもサン プル属が例として、
1:52:40	書かれているんですけど、
1:52:42	さっき言ったみたいに、MG8.5、X-100 幾つっていうのがあって、それ で、この応答スペクトルを書かせると、
1:52:50	どのぐらいのレベル感になって、今設定されているこの、
1:52:56	最大 0.02 秒で 1200galで、
1:52:59	これと比べて、
1:53:01	同じぐらいなのか、それとも大きくなるのか、小さくなるのか、その関係 についてちょっと教えていただきたいという趣旨で、
1:53:11	中部電力の岩瀬です。わかりました応答すべ
1:53:16	取るの評価をしてる時は、Mj8.5 でやってますけれどもXeqをもっと短い 距離の方をとっていますので、
1:53:24	基本的にこのXeqが長い 100 何キロのものをを使うと、小さくなる方向で す。
1:53:33	はい、佐口です。そうすると、今は、
1:53:38	この黒線ですね 13 ページの黒線というのは、Mjは、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:53:43	弁護、
1:53:45	なんだけれども、
1:53:48	高さが近い、近いっていうのは、ちょっとどれぐらいなのかわからないんですけど、
1:53:53	なのでそれと比べれば、いわゆる保守的な、
1:53:57	線になっている、そういう理解で、
1:54:00	中部電力の岩瀬で作者のおっしゃられる通りです。
1:54:06	はい。そこはまず理解をし
1:54:08	あとですね、結局この応答スペクトルに基づく、基準地震動なんですけどこれは断層モデル、
1:54:17	も踏まえて、設定と、
1:54:19	いう形で一番最初にありましたね。
1:54:23	何ページか忘れちゃったけど7ページのところですかね。
1:54:27	という形で、
1:54:29	じゃあ、
1:54:30	最終的なものオダ断層モデルと、
1:54:34	比較してみると、
1:54:35	これは確かに、全部包絡しているという言い方がいいのか同じぐらいのレベル感という言い方がいいのか。
1:54:44	なんですけど、
1:54:45	そうするとです。
1:54:47	これ逆に考えると、あれ、断層モデルって当然9.0でやってるので、
1:54:53	でも、
1:54:54	応答スペクトルって、8.5ですよ、8.5のレベル感ですよって。
1:54:59	言われてそれが同等ですよって言われちゃうと、
1:55:02	あれ断層モデルの猛暑1008.5レベル程度も、
1:55:06	これ地震動
1:55:07	でしかないんじゃないのっていう、
1:55:10	ふうにとらえる人もひょっとすると出てくるかもしれないんですけど。
1:55:15	いずれにしても、応答スペクトルと断層モデルと、
1:55:19	最終的に同じぐらいのレベル感になっているにもかかわらず、
1:55:24	地震規模として、
1:55:26	片や8.5
1:55:27	で方は、片や9.0
1:55:29	で、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:55:30	と違います。
1:55:31	いうこの不整合ですよ。
1:55:34	これについてってどう考えてらっしゃる。
1:55:41	中部電力の岩瀬です。ここに関しては
1:55:49	今回の東北地方太平洋沖地震のMW9.0 のモデルをmJ。
1:55:55	とかアノを、距離減衰の観点から見た規模のときに、規模が 8 程度に見えると言ってることと、基本的には同じ話だと思っと思ってまして、断層モデル法は、こういった大きな規模のものも大きな
1:56:08	規模のまま、評価、地震動評価できるのに対して、
1:56:12	応答スペクトルの方の方はこれ距離減衰式にもよるかもしれませんがけれども、地震規模が大きくなってくると、適切にその地震動の特性を評価できるとは限らない。
1:56:24	ということの違いが、そこで 8.5 のモデルまで、評価までか 9 までやるかの差になっている。
1:56:31	ただ、旧て評価をしたものと 8.5 の関係が多少最終的に違いはありますけれども、
1:56:40	8.5 の地震動で表現できているということに関しては、基本的には断層モデル法の 9.0 ということで、南西
1:56:50	東南海域とかまで評価をしますけれども、基本的に地震動が大きいところについては敷地の近いところで決まっていますので、そういったところと、対応している関係になっていると考えています。以上です。
1:57:04	はい、佐口です。
1:57:06	基本的になので、結局、9.0 と断層モデルでやってますけど、
1:57:12	結局一番寄与してる場所は敷地から近いところで、M8.5 でやっても、多分同等レベルなのかなっていう多分そういう今お答えがあったのかなと理解します。
1:57:22	で、16 ページのところですね。
1:57:25	真ん中のところで今回変更された、追記された分
1:57:29	これおそらく内閣府 2012 って言われてますけど、
1:57:34	2012 っていっぱいあるんですよ、多分後の。
1:57:37	参考。
1:57:38	文献、引用文献見ても、
1:57:40	どれのことを指してるのかわからなくて、もしくは全部のことを指しているのか。
1:57:44	ていうのがちょっとわからないんですけど、いずれにしても、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:57:48	最終的な内閣府 2012 第二次、二次報告ってやつですね。
1:57:53	それ見るとこういうような内容は当然書かれていて、ちょっとその前半の部分っていうのは、
1:57:59	これ二次報告よりむしろ一次報告の方がかなとは思いますが、
1:58:04	後半の部分っていうのは、多分理事報告でも同じようなことが書かれているというのは当然確認をしています。その上で、
1:58:14	この経験的手法に用いる場合は、
1:58:17	8.3 で設定してますけども、
1:58:20	内閣府 2012 でいう、
1:58:22	経験的賞等、
1:58:24	今、
1:58:25	御社が
1:58:27	使っているですね。
1:58:28	これ経験的上ってノダノダの手法なんですけど、
1:58:34	これっておなじ。
1:58:35	が違うのか。
1:58:37	ていうのをちょっと教えてもらっていいですか。
1:58:44	中部電力の岩瀬です。もちろん、
1:58:47	内閣府が、
1:58:49	使っている。
1:58:51	距離減衰式と我々が使ってるノダの方法は、違う式だという認識をしております。
1:58:58	その上で、距離減衰式という、の特性という目で、
1:59:03	マグニチュード 8 を超えたところの扱いというのは、参考にできるだろうというふうに考えて評価をしているものです。
1:59:14	はい規制庁佐口です。多分、内閣は 2012 年もうあくまでも経験的手法と、
1:59:21	いう距離減衰式というのが書かれてますけど、実際にどの方法で、
1:59:27	やっているかっていうのは、実は内閣府 2012 自体には出ていないので私もちょっとこれは確認できないんですけども、
1:59:34	ひょっとするとこのMwとMJの違いというのはあるかもしれないんですけど、
1:59:39	で、一方ですね、これ書かれているように、何か、2012 年ですよ。
1:59:45	これはあくまでも、2011 年の東北地方太平洋沖地震の、
1:59:50	知見と、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:59:51	いうところなんですけど。
1:59:53	逆に言うと、南海トラフの、
1:59:58	企業のもの、例えば企業債だと、大妥当性 707 年の
2:00:02	多分宝永地震だと思うんですけどそういうのも含めた、
2:00:06	既往の地震ですね、内閣府、ちゃんと実際あったもの。
2:00:11	ていうものから見る。
2:00:13	mJと、
2:00:15	それから今御社が設定されているM字、この関係について教えてください。
2:00:29	中部電力の岩瀬です。
2:00:32	mJという形では直接分析したものを今、参照はしていませんけれども、 従来から
2:00:39	過去の歴史地震ですので、震度の知見ではちゃんとずっと調べており まして、
2:00:45	過去の地震というのは記録の精度の問題はありますけれども、基本的 にそんなに大きな差があるものではなくて、安政東海地震とっていわ ゆる 2 連動ですね。
2:00:56	紀伊半島金までの敷地に近いところの、
2:01:00	地震動、敷地の地震動で大体宝永を見ても大きく変わらないと 3 連動し た時で大きく変わらないという知見は確認しておりますので、そういった ところとこのM8.5 までで評価をするって言うことは対応してるという のは、検討してございます。
2:01:19	はい。規制庁佐口です。そうするとですね、例えば 42 ページとか、
2:01:28	そのあとにも多分あると思うんですけど、51 ページとか、
2:01:31	幾つか多分数字が出てるんですけど、この辺の数字っていうのは参考 程度に、
2:01:37	見ておけばいいと。
2:01:39	そういう理解でよろしいです
2:01:42	中部電力の岩瀬さん、今佐口さんのおっしゃられた通りここに
2:01:46	M8.6 の宝永地震というのも入ってますけれども、この 8.4 の安政東海 地震と揺れの観点では同程度だと。
2:01:53	いう、敷地ので、当海域のってことですけどもそういった観点では同 程度だっていうと、ところで今 8.5 を使うところに、いう意味ではこの 8.6 という数字が参考程度っていうのは佐口さんのおっしゃられる通りで す。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:02:08	はい。岸調査役です一応考え方だけは確認できましたのでありがとうございます
2:02:25	はい。そうすると、ちょっとすいません時間。
2:02:29	オーバーしちゃいますけどあと断層モデルの方ですかね。
2:02:32	一応今回、107 ページのところ、
2:02:39	これはSS II の右側に、
2:02:43	あるこの増幅割 63 増フナツ 106 にここまで含めてSSつうの。
2:02:49	設備ですね。はい。
2:02:51	で、これがですよ。どう減っていくかでS _s -Dを上回るものの内訳。
2:02:59	これですと、さらにといて最終的な、
2:03:03	こうなんですけど、
2:03:06	ちょっとこの前のヒアリングでも、区民したんですけどこの、
2:03:10	言ってみるとその 62 ケースから 23 ケース、77 ケースから 22 ケースっていう中で、
2:03:16	例えばS _{s1} の方ですね内陸地殻内に志賀さんから 2、
2:03:23	プレート間の方も中 52 から 19 に、海洋プレート 7 から 2 についていうふうに最後減るんですけど、一応今のところ、三つの地震発生様式、プレート、海洋プレート内の方は、
2:03:35	場合によってあるかなスラブ内と沈み込むの方が多分上は両方入ってくる残っている場合も多分あると思うんですけど、一応その地震発生良い様式を跨いで、
2:03:46	一応比較をされていて、この同じプレート間同士で落ち落としますとかですね、例えば、
2:03:52	プレート間地震によって内陸地殻内が落ちるもの、その逆で、内陸地殻内地震によってプレート間が落ちるものっていうのは、
2:04:00	これ事実として幾つあるんですかねこの最後の 23 ケースが 22 ケースも、
2:04:06	減っていくこの過程で、
2:04:21	中部電力の岩瀬です今ちょっとカウントしたものが手元にはないので、
2:04:27	答えられるように準備しておきたいと思えますけれども、
2:04:33	都内内陸の中で落ちているものではなくて内陸が他の地震タイプのもので落ちているものとかそういったものの数が、
2:04:42	確認したいということでしょうか。
2:04:46	一応そのプレート間地震同士の

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:04:50	勝負で、落ちてるやつってのは多分大半だとは思んですけど、例えばそのプレート間地震によって、海洋プレート内が落ちましたとかですね、あとは海洋プレート内によって回プレート間が、
2:05:01	落ちたこのケースは落ちましたっていうものが、あるのかないのかっていうところで、確か
2:05:07	大田内陸地殻内の
2:05:09	このAs1の方ですね、62ケースの内訳の3が、この下の23最後SSに行くと、2になるのは確かなプレート間で落ちてますみたいな。
2:05:19	なんかそんな話は、前回か前々回のヒアリングで、
2:05:23	そう、そういうことはお聞きしたんですけど。
2:05:26	いろいろ
2:05:27	全体で比較しちゃってるので、外殻線で、
2:05:31	落ちるときに、この
2:05:33	内陸地殻内プレート間かいうプレート内を跨いで落としてるものはどれですかという。
2:05:38	一応、ちょっと今、今手元にはないっちゃうことですね。
2:05:48	中部電力のバス数はちょっとわからないんですけど一番、黒須プレート間で落ちてるのがわかりやすいのは沈み込む海洋プレート内地震が鉛直動の長周期で、
2:05:59	大きいんですけども、
2:06:01	それが落ちてるのは同じように大きい基本的にプレート間地震なので、
2:06:06	その中にはプレート間地震で落ちてるものはあるのは確認していますが、
2:06:11	答えられるようにちゃんと準備をしておきたいと。
2:06:16	はい。
2:06:18	一応Ss1を上回るもの。最後、Ss1シリーズの方ですね。
2:06:24	これが一応水平鉛直、はい。NSEWUDで、一応どれが最後、
2:06:32	と
2:06:34	最大上回る周期で最大になってるかということで見ると、
2:06:40	プレート間はね、割とその一方向或いは複数方向、
2:06:44	一応3方向がチャンピオンなんてのもあるのかな。
2:06:49	海洋プレート内の方わあ、
2:06:53	何だUD方向の長周期っていうかもう本当に、
2:06:56	語尾をぎりぎりというか、場合によっては多分、あれ、特徴としては多分プレート間よりも5秒以上、5秒から10秒ぐらいのところ、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:07:04	割と最後の短周期は、大したことなくて、
2:07:08	上下動のなんか長周期 5 秒 10 秒ぐらいのところ割とでかかったんで、その関係でかなり特徴的なものは最後、
2:07:16	やつ残りました
2:07:17	でない肉地殻内は、エザキは残らなくて 17 が、
2:07:23	上下方向だったら令和EWとかでこれが多少の出っこみ引っ込みで、
2:07:30	多分プレート間との勝負で残ってますということなのかな。はい。
2:07:37	で、外殻線の比較は 114 で、
2:07:41	最後残ったものがこれと、
2:07:43	おんなじようにSs-2 シリーズでいくと。
2:07:50	122 か。
2:07:52	これは海洋プレート内のナンバー21 日、多分これは同じように、上下方向の長周期ぎりぎり。
2:08:00	のところで、上回ってる。
2:08:03	で、
2:08:04	面内が微妙なところで上回っ。
2:08:09	これはあんまり長周期っちゅうことでもない。
2:08:12	多分短周期のところまでであれば、内陸地殻内はこっちの増幅ありの方は、17 がね、そもそも増幅ありケースがない時点で、多分増幅ありのプレート間に
2:08:24	簡単に分けましたっていうことだと思うんですけど。
2:08:27	そういう結果かな。
2:08:33	で、いずれかの方向でも、何だ最大となる応答スペクトルなれば、これは全部選んでますっていうのを、
2:08:41	122 とかでホントりにした上でやってますと。
2:08:46	特定せずはあんまりね比較でちょっとの間少し私も聞き方、
2:08:51	がいたんだけど、特定せずは 129 かな。
2:08:59	留萌はS、Aと増幅あり、増幅なしともにSs1Ss2、フェーズ 1DSs-Dです。ね、との比較で最初の段階で落ちますと。
2:09:09	標準応答スペクトルはSs-Dを上回るケースというところでは、
2:09:16	そのまま残るんだ、起こるのって、残るんだけど、Ss1 はね、標準応答スペクトルいっぱいしかないんで、そのままSsになりますと、
2:09:25	Ss2 の方は、
2:09:27	結局、増幅なしケースの標準応答スペクトルもSs-Dは上回るけど、さらにそれは増幅ありの標準応答スペクトルに、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:09:36	包絡されるんで最後、増幅ありの標準応答スペクトル一般が残る。
2:09:41	ということで、これもこれって単純な比較なんで、
2:09:48	はい。
2:09:49	そうすると、最後はあんまりあれかな。
2:09:55	あとは、多分時刻歴は系。
2:09:57	シリーズなんで、
2:10:02	貼り間違えとか品質問題がなければ多分大丈夫。
2:10:06	はい。
2:10:08	うん。
2:10:12	補足説明はさっき言った意味で言うと、106。
2:10:16	目次が 159 ページからって、
2:10:19	補足①は、特には変えてないよねで補足②がさっき言ったように、
2:10:26	応答スペクトルの基準地震動を作るときに、必要なものと、あとはいわゆる免震の検討で使ってるものと切り分けて、
2:10:36	あとは、検討地震ごと断層モデルの事象の基準地震とこれは、
2:10:41	補足 3 はこれはそのまま補足 4 に繰り下げればいいのかと特にあんまり、
2:10:46	書いてないし、あまり
2:10:49	何だろう、説明の中でも、特段は、
2:10:54	使わないかな。
2:10:56	ですね。
2:10:58	なんかあんまり、
2:11:00	説明としては、
2:11:01	あと④が松原で、
2:11:04	これも、
2:11:06	特に当然ヒアリングでは書いてないし、
2:11:09	一応これを補足で一応会合の場でも説明は簡単にはするんですよ。
2:11:15	レベル感として全然変わらない程度ですっていう。
2:11:20	はい。
2:11:22	あと全体通して最後、
2:11:24	当たるかといいますか、どうぞ。
2:11:30	谷です。刀禰さつき僕 11 ページの話をしたんだけど、
2:11:35	これなんかさ、何かやりとりを聞いてて、やっぱこれ書いてることは、
2:11:40	おかしくないなと思いました。
2:11:44	ごめんなさい。ただただ、そうですね地震動の家の増幅を考慮しない。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:11:50	地震動評価の、
2:11:51	僕がこれを見て、
2:11:53	全部をちゃんと検討してんだっていうのが、何かぱっと行をオノとらえなかったっていう問題だと思うので、文章はねこれで合ってるし、説明もおかしくないです
2:12:05	ごめんなさい。
2:12:07	特にこれ修正しなくてもいいかなっていうふうに思い直しました。中部電力の岩瀬です。ただ
2:12:14	大きいケースがあるといった話が、ちゃんと全部の地震動評価結果を、
2:12:20	ちゃんと見みますと言ってるところまでを補足に書けば、
2:12:25	誤解がないので、そういった、ちょっと適正化を図ろうかなと思ってます。
2:12:36	もし修正するとしたら、
2:12:40	この 11 ページの記載は、
2:12:43	増幅させる評価を行っていることから、
2:12:49	増幅を考慮していない。
2:12:52	徴収金、
2:12:55	THAIで、
2:12:58	ではっていう、証紙のところに何か形容詞加えた方がいいのかなという気はちょっとしました。
2:13:07	以上です。中部電力のイワサイセありがとうございます。適正化いたします。
2:13:22	はい。
2:13:22	強いですかねで、
2:13:24	少しその表現ぶりというか、また説明の意図を伝わるようにということで、少し文言の方は、
2:13:33	押ししていただくとして、
2:13:38	通りですね、あとスケジュールなんですけど、これはちょっと簡単に、多分
2:13:43	どうなんだろう、途中の文章の部分は、あんまりそこ細かいところを見てもしょうがないんで。
2:13:49	いじるだけ簡単に説明いただけますか。
2:13:51	はい。中部電力の尾川です。
2:13:53	こちらの審査対応スケジュールにつきましては 8 月 4 日の審査会合で前回ご説明をさせていただいております、8 月 30 日のヒアリングで

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	も、前回のか、審査会合の審議を受けて修正したところを説明させていただきました。
2:14:08	本日の変更箇所としましては 10 ページのところに、
2:14:12	対応スケジュールありますけれども、この 8 月 9 月にヒアリングを実施していただいておりますので、その実績を反映しております。
2:14:21	前回の審査会合からの主な変更点としては、基準津波の関係ですけれども、次回 10 月頃にですね、地震による津波ということで、プレート、
2:14:32	とか、それから海域の活断層海洋プレート内のコメント回答させていただきたいということで修正をしているものになります
2:14:40	変更点としては以上になります。
2:14:44	すいません。あと、すいません今日提出した資料ですけれども、8 月 9 月のヒアリングの実績を反映しておりますけれども、■
2:14:54	にすべきところちょっと今城なってますので、
2:14:57	この点については修正をさせていただきます
2:15:03	はい。これね例えば 8 月 4 日の会合とか、
2:15:07	あとはこれ 9、ちょっと 9 月に、
2:15:10	今次多分これ次の会合のときについでにこれも説明っていう趣旨だとすると、
2:15:15	多分この今 9 月のエンドになっている。
2:15:19	準地震動。
2:15:21	と、
2:15:22	地すべりかがん減少の S2629 人造粒コメント回答かな。
2:15:28	これも実績というか当日なので、
2:15:32	これどっちでもいいですけど、
2:15:34	作って、
2:15:35	何ともその時点での実績が実績として書くと、
2:15:39	あとあれか、地質の参考説明も、
2:15:42	これも実績になるのかな。はい。
2:15:44	すいませんちょっとここはその時点で
2:15:47	資料の日付時点で実績となるものは実績と、
2:15:50	いうことで書いていただくとして、
2:15:55	ちょっと資料の提出予定は 10 月に入りますけど、
2:16:00	ちょっとねプレート間海域活断層って結構プレート間のコメント回答って いうか全体の構成ロジックを

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:16:08	見直見直してるのかもしかしてあんまり見直しないのか、それは物が無いのでわかりませんが、
2:16:15	結構ねボリューム感もあるので、プレ、ちょっとこれは物を見て決めますけど、プレート間みたいなものは、ちょっとまず、何とかヒアリングで技術的な中身の部分と、よりも場合によっては少し
2:16:29	多分、何かモデル
2:16:32	形成でしたっけ、何かABCDのやつが、最後どういう、何かを、
2:16:39	下にね、最後大きく置き換わるというか整理されたのかとか、
2:16:42	ちょっとその全体のね骨組み整理員のアノをどうするつもりでやったのかとか、
2:16:48	そこら辺だけね少し何かもしかししたら、中身を確認するというのを、その辺の部分の場合によっては少し、
2:16:55	切り取って面談で確認して、
2:16:58	何か多分そこなんかしっかり聞き取らないと、分厚いものを後、何か勘違いしたまま後ろ見ていってもしょうがない部分もあるので、ちょっとそこら辺はね工夫したいと思います
2:17:09	けど、事例集も結構ボリュームミーなので、一応希望としてはね、10月のエンドぐらいに、
2:17:16	この辺、会合でかけたいという希望だというのは、資料としてはそう。
2:17:22	中で買うものでございます
2:17:25	海洋プレート内地震と活断層のところコメント回答部分についてはですね
2:17:32	量はすごいということではないんで特に活断層の方は、
2:17:37	計算した結果をお示しつつ、
2:17:42	断層の傾斜がどういう不確かさとかいうところなんで、
2:17:47	こちらの部分については、
2:17:48	それほどではないかな。鈴木さんおっしゃられる通りプレート間のところって、
2:17:52	ボタンかけ違えてる可能性がないと大私どもとして理解してるつもりなんですけどちょっとそのやり方についてはまた、
2:18:02	ご相談させていただければと思います。
2:18:05	はい。
2:18:07	と。
2:18:11	いって、ほい

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:18:12	で、地震動の方はちょっとねこれは次の会合でどうかでそれ次第で、なので、改変って改変後の多分同じ日の会合なので、多分その結果を踏まえて多分その場でアドリブで御社なりに、
2:18:27	今こうなってますけど、もしその場でアドリブで補正するかもしれないと、補正というか補足の発言をさしていただければと思いますし、
2:18:36	はい。地質はちょっとそんなにアップデートというかしばらくもう一段先の話。
2:18:42	わかりました。ちょっと一応会合当日の、
2:18:46	あの時点の実績ということで次のね直近の会合で配るということであれば、
2:18:53	そのように適正化いただければと思います。他どうですかスケジュール何かありますか。
2:18:58	よろしいですか。なければ以上で、ヒアリング全体も終了しますけど、
2:19:05	あ、すいません、前だけ。
2:19:08	はい。お願いします。よろしいですか。
2:19:09	はい。
2:19:12	資料の3ページなんですけど、
2:19:15	敷地の地質地質構造のところ、
2:19:18	ちょっとこれ注意しないといけないなと思ったのは、
2:19:21	右側の欄の関連する審査会合のところ、
2:19:26	今回1178回後8月4日ってことで、これ、加えましたけれども、
2:19:32	これ、
2:19:33	他の会合等、
2:19:36	これ並列に書いていいものとい良くないものってあると思うんですけど。
2:19:41	これってスケジュールだけ説明したものについて、
2:19:45	書くんであれば、スケジュールの中で参考で説明をしたっていう名ちゃんと書いた方が、
2:19:52	いいような気がします。普通の審議した会合と、こういうふうにしちゃうと同じような位置付けになって、中身審議してないのにやったかのようにこれ読み取れてしまうのでここだけちょっと。
2:20:05	差別化してもらえますか。
2:20:07	はい。チームで加茂でございます。申し訳ございません。おっしゃる通りかと思いますここスケジュールの状況をご説明しただけですので、同じような審議いただいたというものではないので、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:20:19	このまま抜いてしまうのか、今名倉調整官おっしゃられたようにちょっとスケジュールだけ提示等々、差別化できるように対応いたします。
2:20:30	少なくとも8月4日は、単に後のスケジュール帳だけで、1月6月23日も別にこれ実は中身の話というのは、後のね、40ページにいくと、
2:20:41	一応ここも参考説明実績っていうところではあるんですけど、一応ここは、
2:20:47	若干、8月4日の時と、今回6月の時とでは、そこまた微妙に違って、参考情報としてどこまで説明したかっていうと、6月の方は、
2:20:59	実は、作業状況としてはちょっとHQからちょっと別のところに手を伸ばしましたという情報が入っていると、単にスケジュールのアップデートがあった8月とか、さはあるんですけど、
2:21:11	税理士もねこの3月9日とか12月23日とは多分給料は違うはずなので、そこら辺多分誤解ないようにしてもらえば、はい。渋谷鎌田おっしゃる通りで、ちょっと6月と8月は、
2:21:23	ご審議いただいたというよりは、我々の進め方をご提示しただけですので、わかるように、記載のほうは修正いたします。
2:21:44	はい。
2:21:45	そうですね3ページのこの箱がキーの左側ですよここを書いてあるのは多分、1Qの話を書いていて、その関連する審査会合予定を含むという、
2:21:56	あと、多分6月8月は増えなくて、聞いて言うと6月はその下の矢印に関するところの関連でですね。はい。
2:22:04	そこら辺すいませんちょっと表現だけ、はい。
2:22:08	もしあれなら、はい。よろしいですかね。
2:22:16	いいですか。
2:22:17	はい、じゃあヒアリングの方は以上で終了したいと思います。お疲れ様でした。ありがとうございました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。